

RADIOLOGICAL SAITAMA

NO.1
2013

学術大会特集号

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会

<http://www.sart.jp>
E-mail sart@beige.ocn.ne.jp

RADIOLOGICAL SAITAMA

2013/1
JANUARY
VOL.61

CONTENTS

学術大会

第28回埼玉放射線学術大会 15

テーマ

「業務拡大への期待と責務」

第28回埼玉放射線学術大会 開催概要 16

参加登録手続きについて 17

第28回埼玉放射線学術大会プログラム 18

第28回埼玉放射線学術大会会場案内図 19

演題発表要綱 20

■読影コーナー

モニターによる読影システム運用開始! 22

■シンポジウム

業務拡大 23

■テクニカルディスカッション

乳腺診療の一員となるために 24

第1回臓器別に考える：頭部領域～虚血性脳疾患～ 25

■ランチョンセミナー

一般演題目次 26

■一般演題目次

演題群Ⅰ 一般撮影①

演題群Ⅱ 一般撮影②

演題群Ⅲ CT①

演題群Ⅳ CT②

演題群Ⅴ 学生

演題群Ⅵ Angio

演題群Ⅶ TV・US

演題群Ⅷ マンモ

演題群Ⅸ 治療・RI・読影補助

演題群Ⅹ 医療安全・チーム医療

演題群Ⅺ MRI

■一般演題抄録 31

演題群Ⅰ～Ⅺ

巻頭言

平成25年新年にあたって

—指示受けから提案、そして判断、実施へ—

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会

会長 小川 清 2

会 告

第28回埼玉放射線学術大会開催のご案内 3

第28回埼玉放射線学術大会機器展示コーナー開催のお知らせ 6

平成24年度 認定試験開催のお知らせ 7

平成24年度 第12回上部消化管検査認定講習会のお知らせ 8

乳腺勉強会 9

第4回救急セミナーのお知らせ 10

第1回Freedセミナーのご案内 11

お知らせ

第38回埼玉消化管撮影研究会 開催案内 12

第16回CT関連情報研究会のご案内 13

平成25年度 関東甲信越診療放射線技師学術大会 14

学術寄稿

「Discovery CT750HDの使用経験」

埼玉県済生会栗橋病院 放射線科技術科 志村 智裕 44

本会の動き

叙勲 瑞寶双光章を受章して 50

平成24年度 役員研修会報告 51

第4回CT認定講習会開催報告 54

平成24年度 MRI基礎講習会開催報告 55

平成24年度 第11回胸部認定講習会報告 56

彩の国いきいきフェスティバル参加報告 57

報 告

平成24年度 関東甲信越診療放射線技師学術大会参加報告 58

各支部勉強会情報

各支部勉強会情報 59

各支部掲示板

第一支部 60

第二支部 62

第三支部 66

第四支部 70

第五支部 72

第六支部 73

会員の動向

会員の動向(平成24年11月30日現在) 75

自由投稿

—みんなのカプリッチオ—

SARTランニングクラブ通信@上尾シティマラソン2012 76

議事録

平成24年度 第2回常務理事会議事録(抄) 78

平成24年度 第5回理事会議事録(抄) 79

役員名簿

平成24・25年度役員名簿 82

正会員入会申込書

84

退会届

86

会員異動届

87

求人コーナー

88

求人広告掲載申し込みFAX用紙

89

投稿規程

90

年間スケジュール

91

編集後記

新年明けまして おめでとうございます



会員の皆様には、希望に満ちた平成25年の新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。また平素は、本会の運営に際しまして格別なご支援とご協力を賜っておりますことに深く感謝申し上げます。

本年も、公益社団法人としての役割を果たすために、会員の皆さんと生き抜く決意を内外に宣言し、新年の挨拶とさせていただきます。

会長	小川 清		
副会長	堀江 好一		
副会長	橋本 里見	理事 (第一支部)	双木 邦博
常務理事 (総務)	田中 宏	理事 (第二支部)	大西 圭一
常務理事 (総務)	芦葉 弘志	理事 (第三支部)	庭田 清隆
常務理事 (財務)	結城 朋子	理事 (第四支部)	山田 伸司
常務理事 (編集・情報)	潮田 陽一	理事 (第五支部)	矢崎 一郎
常務理事 (学術)	富田 博信	理事 (第六支部)	石川 直哉
常務理事 (公益)	中村 正之		
理事 (学術)	栗田 幸喜	監事	山本 英明
理事 (学術)	今出 克利	監事	鈴木 正人
理事 (学術)	佐々木 健	顧問	和田 幸人
理事 (編集・情報)	八木沢英樹		
理事 (公益)	星野 弘		

平成25年新年にあたって —指示受けから提案、そして判断、実施へ—

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会
会長 小川 清



新年あけましておめでとうございます。旧年中、会員の皆様には、本会の活動に対し、格別のご支援を賜り厚く感謝申し上げます。本年も理事一同、皆様に満

足いただける技師会活動サービスを心掛ける所存ですので、何とぞ昨年同様にご支援、ご協力をお願いします。

本会は昨年4月に、悲願であった公益社団法人への移行を行った。今年は、公益社団法人として事業活動を重ねて環境整備の見直しを図り、県民の健康維持向上に貢献する医療職能団体法人として相応しい内容にすべく、より一層努力していく所存です。

さて、元旦は一年の抱負を語る時なので、我々の業務の将来について記してみたい。静注（抜針）や下部消化管業務に対する厚労省通知が国会の影響で大幅に遅れている中で、各地域で講習会が開催され、多くの会員が受講している。これらの流れは診療放射線技師業務単独の業務拡大のみならず、「チーム医療」というキーワードで括られる全ての医療職に関係し、これを「大変だから」とか、「責任がかかってくるからやりたくない」、「現状でよいではないか」という後ろ向きになると診療放射線技師の将来はない。医療技術が進み、社会の医療に要求している内容が、より高くなってきている現在の医療において、全てを医師から指示という形では、対応できなくなっている。医療の判断は医師であるが、判断する根拠、材料を我々が提案していくこと、つまり医師の指示をきちんと実行することのみならず、患者のためになることを「提案」していくことが求められている。「提案」ができるスキル、「提案」ができる環境作りなど、先駆者からアドバイスを貰いながら、進めてほしい。

一方で真のプロとしては、「提案」だけでなく「判断」から「実施」が強く求められる。例えば、CT検査室にて装置性能に熟知した診療放射線技師が、他の画像診断や検査データから造影検査の必要性を強く感じ、造影を「判断」する。そして患者さんの状態を把握しながら造影剤の種類、注入量、注入速度、スキャン条件を組み立て「実施」する。看護師と協力しながら、このように実践している病院はまだ少なく、大きな病院ほど医師に確認し、判断を求めている。それは患者さんに投与する医薬品の種類、量を決めるのは、医師のみという医師法の縛りがあるからである。実践する病院を増やすには、安心してできる法整備も肝要であるが、診療放射線技師の意識改革、スキルアップが強く求められる。

自分達が実施した仕事の評価を自らせず、他人任せにしている職業に明日はない。つまりこれからの診療放射線技師は、より高い画像診断能評価ができ、その評価に基づいた診断価値の高い画像を提供していかなければならない。そして診断能を評価できるスキルを身に付けるためには、読影能力の向上が必須である。読影に関しては、検査の現場にいて患者を診ている診療放射線技師だからこそできるレポートがあるはずであり、読影医と同じレポートを目指しては意味がない。

医師が行っている医行為の根幹部分は当然医師であるが、医行為の関連周辺部分について、医師以外にも医療関連職種である、メディカルスタッフも担務していく環境を検討している時代になってきた。近い将来に診療放射線技師が提案、判断そして実施のできる職業へとなることを期待している。

皆様のご健勝とご活躍を心からお祈りいたします。本年もよろしく申し上げます。

平成25年1月吉日

第28回埼玉放射線学術大会開催のご案内

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会

会長 小川 清

第28回埼玉放射線学術大会のご案内をさせていただきます。

昨今の医療現場におけるチーム医療推進が進められる中、今後、診療放射線技師の業務拡大が、さらに広がっていくと思われれます。これを受け、本年度の大会テーマは「業務拡大への期待と責務」と題し、開催する運びとなりました。このテーマに沿って、様々な大会企画も準備しております。

前回の第27回学術大会は、会員の皆様のご尽力もあり、過去最高の58演題が登録され開催いたしました。会場が手狭となりご不便をおかけしました。今回は、駅からのアクセスも良い、大宮ソニックシティに会場を移します。メイン会場の国際会議室を含め、市民ホール1～4も全面的に使用しますので、快適な環境にて学習ができることと存じます。

学術大会は、埼玉県診療放射線技師会における最大のイベント事業であり、多数の会員に出席をいただきたいと考えております。公私共々お忙しいと存じますが、ご参加の程、お願い申し上げます。

なおプログラム詳細につきましては、本会会誌「埼玉放射線」もしくは、順次更新いたします埼玉県診療放射線技師会 Web サイトをご覧ください。

記

日 程：平成25年3月3日（日）

会 場：大宮ソニックシティ

〒330-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木町1丁目7-5

電話 048-647-4111

内 容：会員研究発表、大会セッション、県民公開講座、読影企画（乳腺・CT・胸部X線・MRI・US・上部消化管：終日開催）、テクニカルディスカッション、被ばく相談コーナー、特別講演、機器展示、その他企画あり（詳細はプログラムをご参照ください）

※本大会の発表後抄録は、データを電子化し、埼玉県診療放射線技師会の学術データベースに収録の上、Web上に公開する予定です。発表される方は、予めご了解下さい。

また会場内にて各種写真撮影を行います。これらが、会誌・webに掲載されることもありま

すので、併せてご了承ください。

問い合わせ：公益社団法人埼玉県診療放射線技師会 学術委員会 委員長 富田博信

電話 048-253-1551（埼玉県済生会川口総合病院）

第28回埼玉放射線学術大会

大会テーマ

業務拡大への期待と責務

- ・シンポジウム 「業務拡大」
- ・特別講演 「チーム医療に関して」
講師：日本診療放射線技師会
北村 善明 理事
- ・テクニカルディスカッション
乳腺診療の一員となるために
臓器別に考える～頭部領域～
- ・県民公開講座
骨密度測定, 被ばく相談,
頸動脈エコーからわかること
- ・リーディングコーナー
胸部X線, CT, US, 乳腺
上部消化管, MRI, etc...



開催日:平成25年3月3日(日)
場所:大宮ソニックシティ
住所:さいたま市大宮区桜木町
1-7-5



主催
公益社団法人
埼玉県診療放射線技師会

県民公開講座

第28回埼玉放射線学術大会



『頸動脈エコーで何がわかるの?』

講師：田中 宏氏

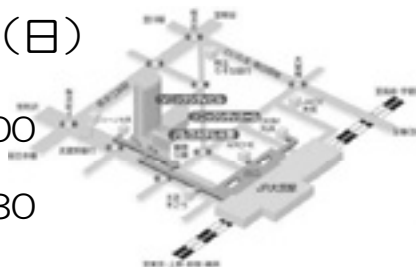
公益社団法人埼玉県診療放射線技師会 常務理事

入場無料 お気軽にお越し下さい!

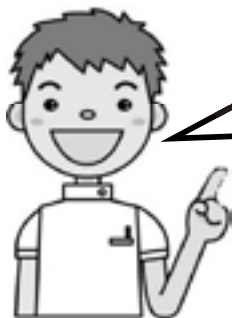
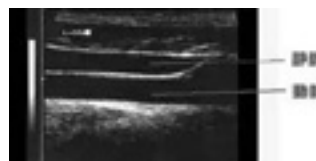
日時：平成25年3月3日(日)

第1回目：10:30～11:00

第2回目：15:00～15:30



会場：大宮ソニックシティ 市民ホール2
〒330-8669埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-7-5



当日は「骨密度測定」を無料で体験
できます。



主催 公益社団法人埼玉県診療放射線技師会
問い合わせ先 Tel 048-664-2728 (9:00～15:00)
月～金(12:00～13:00および祝祭日を除く)

第28回埼玉放射線学術大会機器展示コーナー開催のお知らせ

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会
会長 小 川 清

この度、例年通りに機器展示コーナーを開催する事が決定しました。

今大会は、大宮ソニックシティの市民ホールを利用し、前年度以上の規模を予定しています。展示内容は、放射線業務に関する機器および製品を対象としています。埼玉県内で開催される、診療放射線技師に関する催しの中では最大規模を誇るため、この機会を逃さないよう積極的な参加をお勧めします。自施設で使用していない製品に触れる事ができるチャンスでもあり、新たな可能性を見つけるだけでなく、参加した施設間での意見交換や、診療放射線技師としてユーザー側からの問題提起や新たな提案をし、医療技術向上へとつなげる場として活用するのも良いでしょう。

急速に進歩する医療業界においては、常に最新機器の情報や今後の動向を探ることが重要です。広い視野をもった業務遂行のため、ぜひ足をお運びいただき、今後における業務の糧となることを期待します。

●前年度学術大会 機器展示

- ・出展数：20社
- ・業種内訳：機器関連 11社
製薬関連 9社

●すでに出展のご連絡を行っていただいた企業

(平成24年12月10日現在)

- 富士製薬工業株式会社
- 株式会社カイゲン
- 日本メジフィジックス株式会社
- 第一三共株式会社
- バイエル薬品株式会社
- 伏見製薬株式会社
- コニカミノルタヘルスケア株式会社



●出展企業の募集

本会では学術大会を演題発表の場としてのみならず、関係各社様との交流の場とも考えております。廉価な出展料でPRできるため、ぜひとも出展をご検討ください。要綱や申し込みフォームなどにつきましては、本会 Web サイトをご覧ください。

募集期間：平成24年11月10日～平成25年2月1日

URL：<http://www.sart.jp/>

平成24年度 認定試験開催のお知らせ

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会

会長 小 川 清

本年度も第11回胸部認定試験、第12回上部消化管検査認定試験、第4回CT認定試験を同日に開催致します。詳細を以下に記しますので、奮ってご参加ください。受験の申し込みは、埼玉県診療放射線技師会のWEBサイトよりお願いします。

プログラム

① 第4回CT認定試験

9:00～	受付開始	
9:30～10:30	筆記試験	第3会議室
10:30～11:30	読影試験	第2会議室
11:30～12:30	物理特性試験	第1会議室

② 第11回胸部認定試験

13:00～	受付開始	
13:30～14:30	筆記試験	第3会議室
14:30～15:30	読影試験	健診センター

③ 第12回上部消化管認定試験

15:30～	受付開始	
16:00～17:00	筆記試験	第3会議室
17:00～18:00	読影試験	健診センター

記

※本年度認定講習会受講者につきましては試験の申し込みは必要ありません（無料）。

※CT認定試験の読影および物理特性試験を受験される方は、必ず各自ノートPCをご持参下さい。物理特性試験ではImage J、エクセル（フーリエ変換のアドイン済み）、実習で使用したエクセルシートを利用します。

日 程：平成25年2月24日（日）

場 所：さいたま赤十字病院 本館5階 会議室1～3、健診センター

住 所：〒338-8553 さいたま市中央区上落合 8-3-33

申込方法：本会 Web サイト（<http://www.sart.jp/member2005/>）コンテンツ→認定技師

申込期間：平成25年1月15日～2月16日

受 験 料：各認定試験共に 会 員 1000 円
非会員 2000 円

問い合わせ：済生会川口総合病院 富田 博信 電 話：048-253-1551

E-mail：h-tomita@sart.jp

お 願 い：公共交通機関をご利用ください。

※駐車場は通常の駐車料金となります。無料駐車券の発行は行いません。

平成24年度 第12回上部消化管検査認定講習会のお知らせ

主催 公益社団法人埼玉県診療放射線技師会
共催 埼玉消化管撮影研究会

本年度も上部消化管検査認定講習会を企画致しました。基礎から応用技術まで幅広く内容を構成しておりますので、初心者ばかりでなくベテランの方も奮ってご参加くださいますよう、よろしくお願い致します。多くの方の受講をお待ちしております。

プログラム (敬称略)

① 平成24年12月9日(日)：上部消化管撮影 認定講習会
終了しました。

② 平成25年1月20日(日)：埼玉消化管撮影研究会と合同開催

9:00～	受付開始	
9:30～10:20	上部消化管精密検査法	大森正司 (さいたま赤十字病院)
10:30～12:00	上部消化管 (読影法)	馬場保昌 (安房地域医療センター)
12:00～13:00	ランチョンセミナー	バリウムメーカー (予定)
13:00～14:30	上部消化管 (病理と画像)	大倉康男 (杏林大学病院 臨床病理部)
14:40～15:40	症例検討会	

③ 平成25年2月24日(日)

15:30～ 受付開始
16:00～18:00 認定試験 (画像評価、筆記試験、読影試験)

第12回上部消化管検査認定講習会 日程の変更について

2012年11月号の埼玉県診療放射線技師会会誌にてご案内させていただいた、上部消化管検査講習会の日程についてですが、諸事情により変更をさせていただきます。ご理解の程、よろしくお願い致します。すでにお申込まいただいた方につきましては、多大なるご迷惑をお掛けしました事をお詫び申し上げます。

記

日 程：認定試験を受ける方は①と②の2日間受講することが条件となります。

場 所：① さいたま赤十字病院5階会議室
② さいたま赤十字病院5階講堂
③ さいたま赤十字病院5階会議室

受 講 料：1) 全課程受講および認定試験
会員 5,000円 (非会員 10,000円)
2) ①のみ受講を希望する場合
会員 3,000円 (非会員 6,000円)
3) 再認定受験のみ
会員 1,000円 (非会員 2,000円)
全て当日徴収となります。

定 員：30名程度。

申し込み：埼玉県診療放射線技師会 Web サイト <http://www.sart.jp/member2005/> コンテンツ→認定技師から

申込期間：平成24年8月13日～平成24年11月30日

連絡先：公益社団法人埼玉県診療放射線技師会 TEL：048-664-2728 FAX：048-664-2733

問い合わせ：さいたま市民医療センター 今出 克利 TEL：048-626-0011 (PHS：7725)

Mail：k-imade@sart.jp

以上

お 願 い：公共交通機関をご利用ください。

※駐車場は通常の駐車料金となります。無料駐車券の発行は行いません。

乳腺勉強会

主催 公益社団法人埼玉県診療放射線技師会

今回、マンモグラフィの被ばくに関して、基本的な知識を身に付けるという目的で乳腺勉強会を企画しました。

良質なマンモグラフィの情報を提供するだけでなく、受診者の被ばくに関する不安を取り除くのも私たち診療放射線技師の役割です。

さらに新たな試みとして、乳腺症例検討会にウルトラクイズ方式を取り入れました。主訴から診断、治療方針までの、一連の臨床を検討していく総合画像診断を経験していただきます。症例に対する選択肢はこちらであらかじめ用意します。同じ選択肢を選んだ方同士でグループを作り、この小グループごとにディスカッションをします。受講者の発表や発言はありませんのでご安心ください。スタッフが各グループの手伝いをさせていただきます。

これまでは一方的な座学でしたが、少人数でのディスカッション形式を採用することにより、大勢の前で発言や発表を行うことが苦手な方でも、気軽に参加できる企画とさせていただきました。

ぜひとも、お誘い合わせの上、ご参加ください。

プログラム

- 12:30 受付
- 13:00～13:50 マンモグラフィの被ばく線量
総合病院国保旭病院 五十嵐隆元
- 14:00～16:00 症例検討会 ウルトラクイズ方式

記

- 日 時：平成 25 年 2 月 3 日（日）
- 場 所：さいたま赤十字病院 5 階講堂
埼玉県さいたま市中央区上落合 8 丁目 3-33
- 申し込み：不要
- 参加費：会員、非会員共に 2,000 円
- 問い合わせ：さいたま赤十字病院 尾形 智幸 t-ogata@sart.jp
- お願い：公共交通機関をご利用ください。
※駐車場は通常の駐車料金となります。無料駐車券の発行は行いません。

第4回救急セミナーのお知らせ 1次救命処置を習得しよう

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会

埼玉県診療放射線技師会では、昨年度に引き続き救急セミナーを企画致しました。第4回は「1次救命処置を習得しよう」をテーマに、実際に訓練用マネキンを使って1次救命処置（以下、BLS）であるCPRや、AEDを学んでいただく内容となっています。実技に使用するマネキンは、一人1体ご用意致しますので、参加者全員が、しっかりと技術を習得できると考えています。また本セミナーは日本救急医学会認定BLSコースに準じて行います。そのため受講された方には、規定の認定書を発行すると共に、日本救急撮影技師認定機構の定める、心肺蘇生法講習会を受講した事となります。

多数のご参加をお待ちしています。

プログラム

14:00～ 受付

14:30～17:30 ミニアンを用いたBLS講習

講師 埼玉医科大学総合医療センター 高度救命救急センター

山内 一 先生

17:30～17:45 質疑応答

記

日 時：平成25年3月16日 14:00 受付開始

場 所：さいたま赤十字病院5階講堂

埼玉県さいたま市中央区上落合8丁目3-33

注意事項：実技中心の講習のため、男性女性とも動きやすい服装でお願いします。

特に女性の方は、スカート、ハイヒール、襟首の大きい服はご遠慮ください。

受講料：会員 6,000円（非会員 10,000円）（ポケットマスクを含む）

当日徴収します。

なおポケットマスクを持参される方は上記より1500円引かせていただきます。

定 員：24名（定員に達し次第締め切り）

実技講習のため、事前申し込みのみとさせていただきます。

連絡先：公益社団法人埼玉県診療放射線技師会 電話：048-664-2728 FAX：048-664-2733

申込方法：埼玉県診療放射線技師会 Web上の専用フォームからお申し込みいただくか、上尾中央総合病院 佐々木健 t-sasaki@sart.jp までメールにて直接お申し込みください。

※前号ではメールのみの申し込みでしたが、ホームページ上でも可能となりました。

問い合わせ：埼玉医科大学総合医療センター 中根 淳 電話：049-228-3508

お 願 い：公共交通機関をご利用ください。

※駐車場は通常の駐車料金となります。無料駐車券の発行は行いません。

第1回Freedセミナーのご案内

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会

近年、医療分野においては、各職種の専門性を活かした、患者を中心としたチーム医療の推進が盛んに行われている。このような時代の中、我々診療放射線技師は診断に有用な画像の提供を行えるよう、疾患や各モダリティの特性を理解し、実行できるよう各施設においても様々な取り組みが行われている。しかし、チームの一員となるためのコミュニケーションスキルや、職種間の情報に関して多くを得られていないのが現状である。

その要因の一つとして『あたりまえ』の感覚が根付いていると考えられる。診療放射線技師としてだけでなく、医療に携わる社会人の一人として、次世代を担う世代が日頃の悩みを解消し、思いを共有する。それが『あたりまえ』の感覚から脱却し、もう一步踏み出した行動ができるための第一歩であると考え、施設を超えた同世代の技師が意見交換し、診療放射線技術だけではなく+αの成長、ひいては未来の診療放射線技師像を語り合うための場所として、Freedセミナーを開催する運びとなりました。ぜひご参加下さい。

記

日 時：平成 25 年 3 月 23 日（土曜日） 14：30～17：30
 場 所：上尾中央総合病院 F館 4階講義室
 内 容：14：30～16：30 ワールドカフェ方式を使った討論会
 16：30～17：30 「人材育成について」
 上尾中央総合病院 佐々木 健

対 象：経験年数 10 年前後または施設の中堅診療放射線技師
 受 講 料：会員、非会員共に 2000 円
 定 員：28 名（先着順）+オブザーバー数名

申込方法：ホームページ上の専用フォームよりお申し込み下さい。

備 考：セミナー終了後、懇親会を予定しています。

問い合わせ：上尾中央総合病院 放射線技術科 佐々木 健

Mail:t-sasaki@sart.jp 電話：048-773-1111

お 願 い：公共交通機関をご利用ください。

※駐車場は通常の駐車料金となります。無料駐車券の発行は行いません。

第38回埼玉消化管撮影研究会 開催案内

共催：公益社団法人埼玉県診療放射線技師会

下記の要項にて、第38回埼玉消化管撮影研究会を開催致します。
ご多忙中とは存じますが、万障お繰り合わせ上ご参集賜れば幸いです。

記

日 時：平成25年1月20日（日） 受付開始 9：00～
場 所：さいたま赤十字病院 本館5階 講堂
会 費：1000円

プログラム

- 9：00～ 受付開始
ワンポイント レクチャー
指導員がフィルム評価を行い、アドバイスをを行います。詳細は下記をご参照ください。
- 9：30～10：20
上部消化管精密検査法の紹介（動画を中心に）
大森 正司（さいたま赤十字病院）
- 10：30～12：00
上部消化管（読影法）
馬場 保昌 先生（安房地域医療センター）
- 12：00～12：50
ランチョンセミナー（協賛：バリウムメーカー）
- 13：00～14：30
上部消化管（病理と画像）
大倉 康男 先生（杏林大学病院）
- 14：40～15：40
症例検討 症例提供：今出克利（さいたま市民医療センター）

以上

※内容および講師の変更がある可能性があります。あらかじめご了承ください。

※事前申し込みは不要です。

※ご来場の際は公共の交通機関をご利用ください。駐車料金は実費での精算となりますのであらかじめご了承ください。

※日本消化器がん検診学会認定 胃がん検診専門技師 取得単位 参加者：2単位（年間）

※ワンポイント・レクチャーについて

消化管画像について指導員がアドバイスをを行います。指導員は、埼放技A評価者もしくはNPO基準撮影指導員が対応します。受付終了後、先着順にて行いますので、自施設のフィルムと撮影条件（撮影装置、バリウム、発泡剤など）の情報を必ず控えてお持ちください。原則としてフィルムで評価を行いますので、画像データの持ち込みはご遠慮ください。

お問い合わせ：埼玉消化管撮影研究会 代表世話人
さいたま市民医療センター 今出 克利
電話：048-626-0011（内線：7725）

第16回CT関連情報研究会のご案内

この度、第16回CT関連情報研究会を開催する運びとなりました。
ご多忙の中とは存じますが、万障お繰り合わせの上、ご出席いただきますようよろしくお願い申し上げます。

日 時：平成25年2月8日（金）18：50～
場 所：コムナーレ浦和（浦和パルコ）10階 多目的ホール
電話：048-887-6565
会 費：500円

プログラム

情報提供 * オムニパーク 300/110mL の有効な使い方 第一三共株式会社 手塚 一明

代表世話人挨拶 宮澤 浩治 （浦和医師会メディカルセンター）
総司会 今出 克利 （さいたま市民医療センター）

【メインテーマ】 『使いこなそう CT』
～ CT 装置メーカー各社の各々の使い方（造影CT含）～

セッション1：「装置の特性を使いこなそう！」

東芝ユーザー	座長 さいたま市立病院	双木 邦博 先生
シーメンスユーザー	益子病院	平井 智也 先生
シーメンスユーザー	済生会川口総合病院	豊田 奈規 先生
GEユーザー	埼玉医科大学総合医療センター	大塚 和也 先生
	済生会栗橋病院	内海 将人 先生

セッション2：特別講演

座長 済生会川口総合病院 富田 博信 先生

異なる装置メーカーの運用方法 ーどの装置で撮りたいですか？ー

国立大学法人北海道大学病院 診療支援部 笹木 工 先生

* 日本救急撮影技師認定機構 認定（2ポイント）

共催 CT 関連情報研究会
第一三共株式会社

コムナーレ浦和：JR 浦和駅東口下車徒歩1分



CT 関連情報研究会

代表世話人 宮澤 浩治（浦和医師会メディカルセンター）
世話人 綾部 輝（さいたま市立病院）
今出 克利（さいたま市民医療センター）
浦田 淳一（益子病院）
草間 勇一（川口市立医療センター）
小林 芳春（埼玉医科大学総合医療センター）
佐藤 吉海（さいたま市立病院）
志藤 正和（済生会川口総合病院）
富田 博信（済生会川口総合病院）
中根 淳（埼玉医科大学総合医療センター）
双木 邦博（さいたま市立病院）
八木沢英樹（埼玉社会保険病院）
会計 八木沢英樹（埼玉社会保険病院）
監事 小林 芳春（埼玉医科大学総合医療センター）

平成25年度 関東甲信越 診療放射線技師学術大会

「今めざすもの」
～未来へつなぐ放射線医療～

【会期】平成25年 **6/29(土)・30(日)**

【会場】 横浜情報文化センター
ワークピア横浜
横浜市開港記念会館



■主催■
公益社団法人
日本診療放射線技師会
東京都診療放射線技師会
埼玉県診療放射線技師会
一般社団法人
千葉県診療放射線技師会
社団法人
長野県放射線技師会
山梨県放射線技師会
新潟県放射線技師会
栃木県放射線技師会
茨城県放射線技師会
群馬県放射線技師会
神奈川県放射線技師会

■実施■

社団法人 神奈川県放射線技師会

第 28 回埼玉放射線学術大会

プログラム集

テーマ

業務拡大への期待と責務

開催日 平成 25 年 3 月 3 日

会 場 大宮ソニックシティ

第28回埼玉放射線学術大会

開催概要

日時：平成 25 年 3 月 3 日（日） 8：30 受付開始

会場：大宮ソニックシティ

埼玉県さいたま市大宮区桜木町 1-7-5

電話 048-647-4558（代表）

テーマ：業務拡大への期待と責務

主催：公益社団法人埼玉県診療放射線技師会



●駐車場 ソニックシティ地下駐車場 ……30分 / 200円

利用時間 / 7:00 ~ 23:00

参加登録手続きについて

登録手続きは、午前8時30分より4階 国際会議場 ロビー 「大会受付」にて開始します。

●登録受付時間

8:30 ~ 14:30

●参加登録費

埼玉会員	2,000 円
他県会員	2,000 円
賛助会員	2,000 円
学生	無料
非会員	3,000 円

●登録方法

- ①埼玉県診療放射線技師会会員の方は会員カードをご持参ください。
- ②参加登録票にご記入の上、大会受付にご提出ください。
- ③イベントパスをお渡ししますので、会期中は必ず着用をお願いします（要返却）。

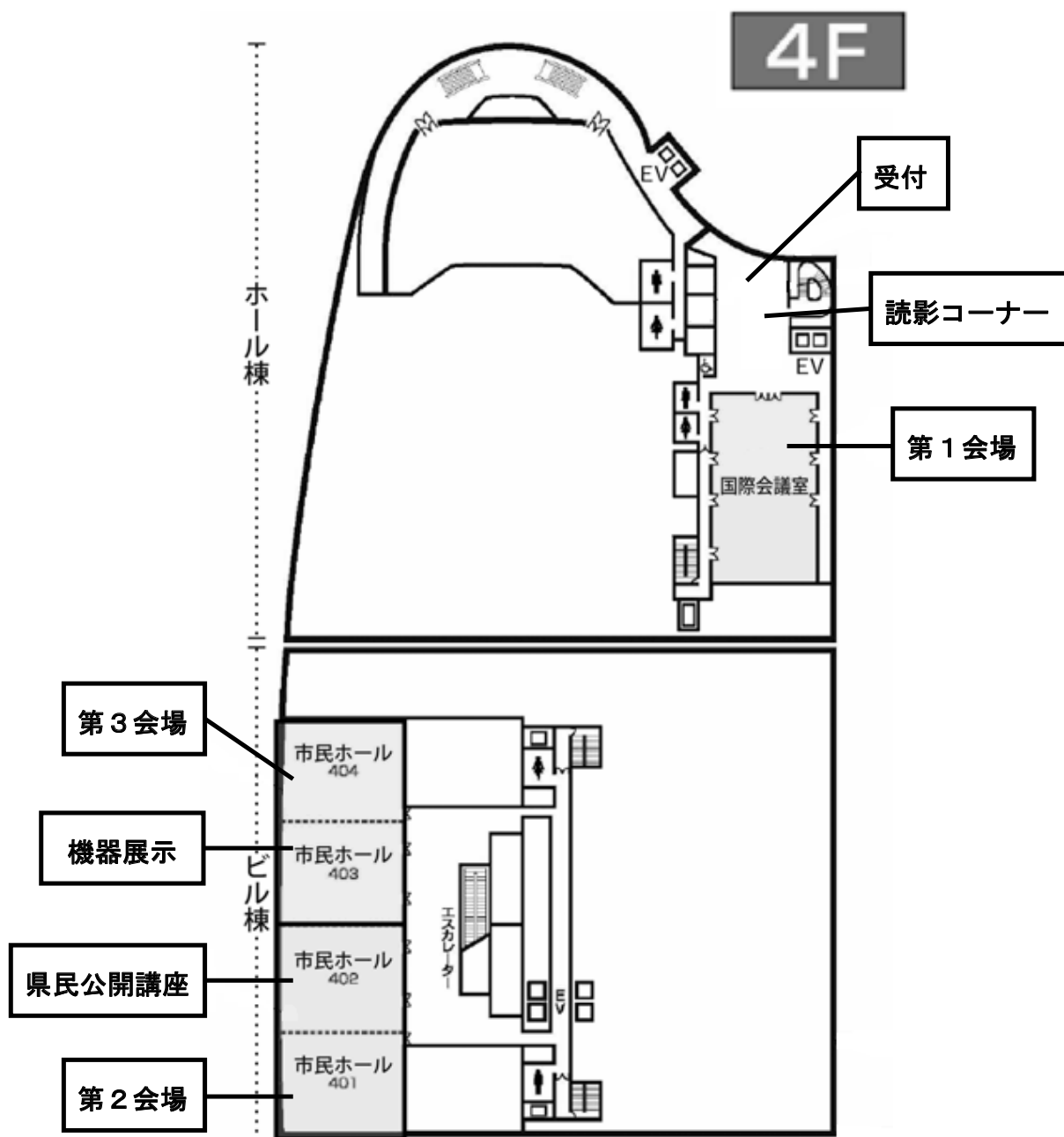
第28回埼玉放射線学術大会プログラム

第 28 回埼玉放射線学術大会プログラム

時間	第 1 会場 国際会議室	時間	第 2 会場 市民ホール 第 1 集会室	時間	第 3 会場 市民ホール 第 4 集会室	時間	県民公開講座 市民ホール 第 2 集会室	機器展示 市民ホール 第 3 集会室	読影コーナー 国際会議場 ロビー
8:30 ～	受付開始 (国際会議場ロビー)								
8:50 ～ 9:00	開会式								
9:00 ～ 10:00	演題群 I 一般撮影① 6 演題 座長 今花 仁人	9:00 ～ 10:00	テクニカルディスカッション 乳腺診療の一員となるために 座長 尾形 智幸	9:00 ～ 10:00	演題群 IX 治療・RI・読影補助 6 演題 座長 渡部 敬洋	9:00	骨密度測定(超音波) 医療被ばく相談 他	機器展示 賛助会員 各社	読影コーナー
10:00 ～ 11:00	演題群 II 一般撮影② 6 演題 座長 横山 寛	10:00 ～ 10:50	演題群 V 学生セッション 5 演題 座長 越沼 沙織	10:00 ～ 11:00	テクニカルディスカッション 第 1 回臓器別に考える：頭部領域 座長 佐々木 健	10:30 ～ 11:00	頸動脈エコーで 何がわかるの？ 演者：田中 宏		
11:00 ～ 12:00	特別講演 「チーム医療に関して」 司会 橋本 里見 講師 北村 善明 理事								
12:00 ～ 13:00	ランチョンセミナー 第一三共(株) 「国際学会のエントリーと楽しい過ごし方」 司会 富田 博信 講師 石原 敏裕 氏								
13:00 ～ 14:30	シンポジウム「業務拡大」 演者：芦葉 弘志 演者：松本 洋栄 演者：岡田 智子 座長 田中 宏	13:00 ～ 13:50	演題群 VI Angio 5 演題 座長 宝田 順	13:00 ～ 14:00	演題群 X 医療安全・チーム医療 6 演題 座長 齋藤 幸夫		骨密度測定(超音波) 医療被ばく相談 他	乳腺 消化管 超音波 胸部 CT 胸部 X 線 MRI	
14:30 ～ 15:30	演題群 III CT① 6 演題 座長 戸矢 雅人	14:00 ～ 15:00	演題群 VII TV・US 5 演題 座長 大森 正司	14:00 ～ 14:50	演題群 XI MRI 5 演題 座長 市川 隆史	15:00 ～ 15:30	頸動脈エコーで 何がわかるの？ 演者：田中 宏		
15:30 ～ 16:20	演題群 IV CT② 5 演題 座長 田中 達也	15:00 ～ 16:00	演題群 VIII マンモ 6 演題 座長 横山 恭子						
16:20 ～ 16:30	閉会式								

第28回埼玉放射線学術大会会場案内図

大宮ソニックシティ



演題発表要綱

I 口述演題発表

1. 発表方法

- ① 口述7分（口述終了1分前に緑ランプが点灯、終了時に赤ランプが点灯します）。
- ② 口述発表は、PowerPoint などによる PC 発表のみとします。
- ③ 動画がある場合と Macintosh をご利用の場合、ご自身の PC をお持ち込みください。
- ④ 発表データは、CD-R、USB メモリー（共に Windows 限定）でお持ち込みください。それ以外のメディアは受付できませんのでご注意ください。
- ⑤ 発表データ登録は、セッション開始 30 分前までに下記会場にて済ませてください。また発表時間の 15 分前までに次演者席にご着席ください。
- ⑥ プログラムの円滑な進行のため、時間厳守をお願い致します。
- ⑦ 会場では各演者ご自身で演台上の機材を用いて、スライドの操作をしていただきます。（係員もおりますので、ご不明な点はお尋ねください）
- ⑧ 発表は 1 面投影です。

2. 演題受付

場 所：4 階国際会議場ロビー「大会受付」に演者受付を設置致します。

時 間：3 月 3 日（日）午前 8 時 30 分より開始

3. 発表者の方へ

■パソコンを持ち込まれる方へ

- ① OS は、Windows（Windows XP 以降）または Macintosh（Mac OS 9 以降）の双方に対応します。
- ② 演者受付でケーブルの接続を確認してください。
- ③ 事務局では、D-sub15 ピン（ミニ）のケーブルを用意します。
- ④ 一部の PC では、本体付属のコネクターが必要な場合がありますので、必ず持参してください。
- ⑤ 事前に各自（自宅・職場等）の PC から外部モニターに正しく出力できることを確認してください。個々の PC や OS により設定方法が異なります。
- ⑥ 画面の解像度は XGA（1024 × 768、60Hz）です。このサイズより大きい場合、スライドの周囲が切れてしまったり、映らない場合がありますので、このサイズ以外の解像度の使用はお控えください。
- ⑦ スクリーンセーバーと省電力設定は事前に解除しておいてください。
- ⑧ 会場にて電源コンセントをご用意しておりますので、PC 用 AC アダプターなど、電源コードを必ずお持ちください。
- ⑨ 念のためバックアップデータとして、CD-R もしくは USB データを必ずお持ちください。データ形式等は、以下の「データを持ち込まれる方へ」をご参照ください。
- ⑩ 発表後は、会場内（発表演台の近くにオペレータがおります）にて、PC を返却致します。

■データを持ち込まれる方へ

- ① 事務局で用意する PC の OS は、Windows 7 です。
- ② プレゼンテーションソフトは、Microsoft PowerPoint 2010 をご用意致します。フォントは OS 標準のもののみご用意します。これ以外のフォントを使用した場合は、文字・段落のずれ・文字化け・表

示されないなどのトラブルが発生する可能性があります。

- ③ お持ち込みいただくメディアは、CD-R もしくは USB メモリーでお願い致します。
- ④ 発表データを CD-R にコピーする時には、ファイナライズ（セッションのクローズ・使用した CD のセッションを閉じる）作業を必ず行ってください。この作業が行われなかった場合、データを作成した PC 以外でデータを開くことができなくなり、発表が不可能になります。パケットライト方式の CD-R は使用できません。
- ⑤ 持ち込まれるメディアには、当日発表のデータ（完成版）以外入れないようにしてください。
- ⑥ 必ず事前にご自身でウイルスチェックを行ってください。
- ⑦ 大会終了後、4月13日（土）までに発表後抄録の提出をお願い致します。

II 一般演題座長の方へ

- ① 4階「大会受付」にて大会参加登録をお願いします。
- ② 担当セッション開始 20 分前までに「座長受付」で受付を済ませ、次座長席にご着席ください。各セッションの進行に関しましては、担当の座長に一任いたしますので、割り当て時間を厳守していただきますようお願いいたします。
- ③ 大会終了後、4月13日（土）までに座長集約の提出をお願い致します。

III ランチョンセミナー講師の方へ

- ① ランチョンセミナー講師の方は大会登録は必要ありません。
- ② 担当講演開始 30 分前までに 4 階国際会議場ロビー「講師受付」にて受付をお願いします。
- ③ 受付後は、担当係員がご案内します。

IV ランチョンセミナー座長の方へ

- ① 4 階国際会議場ロビー「大会受付」にて大会参加登録をお願いします。
- ② 担当講演開始 30 分前までに、講師同様、4 階国際会議場ロビー「講師受付」にて受付をお願いします。
- ③ 受付後は、担当係員がご案内します。

V テクニカルディスカッションの演者・座長の方へ

- ① 4 階国際会議場ロビー「大会受付」にて大会参加登録をお願いします。
- ② 4 階国際会議場ロビー「講師受付」にて受付をお願いします。
- ③ 受付後は、担当係員がご案内します。
- ④ 大会終了後、4月13日（土）までに座長集約および発表後抄録の提出をお願い致します。

VI 発表後抄録について

- ① 一般演題演者、一般演題座長、テクニカルディスカッション演者、テクニカルディスカッション座長の方は 4 月 13 日（土）までに発表後抄録の提出をお願い致します。
- ② 一般演題演者の方は Microsoft Word A4 版 1 ページ以内（厳守）。書式に関しては、本会 Web サイトから「学術大会抄録ひな形」をダウンロードし、定型に従い作成をしてください。
- ③ 一般演題座長、テクニカルディスカッション演者、テクニカルディスカッション座長の方は Microsoft Word A4 版 2 ページ以内に座長集約をご執筆ください。
- ④ 発表後抄録の提出は電子メールのみとし、提出先は下記の通りです。

E-mail : h-tomita@sart.jp

■読影コーナー

国際会議場ロビー 9:00～15:00

モニターによる読影システム運用開始！

近年、診療放射線技師も各種認定・専門技師制度が充実してきており、装置特性だけでなく画像読影、疾患鑑別まで求められています。

平成22年4月30日、厚労省医政発0430第1号「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について」が通達されました。ここでは、基本的な考え方として「各医療スタッフの専門性を活用して、患者・家族とともに質の高い医療を実現するためには、各医療スタッフがチームとして目的と情報を共有した上で、医師等による包括的指示を活用し、各医療スタッフの専門性に積極的に委ねるとともに、医療スタッフ間の連携・補完を一層進めることが重要である」としています。診療放射線技師の役割として、放射線治療・検査・管理や画像検査などに関する業務が増大する中、当該業務の専門家として医療現場において果たし得る役割は大きなものとなっています。診療放射線技師の積極的活用として「画像診断における読影の補助を行うこと」、「放射線検査等に関する説明・相談を行うこと」の2つが求められています。

本会においては、以前より読影コーナーを学術大会にて設置し、積極的に読影に関して取り組んで参りましたが、今回からは、ドクターネット（株）との共同開発により、モニターによる読影システムを構築しました。

今回は以下に関して、モニターによる読影システムを構築しています。

- 胸部 X 線
- 胸部 CT
- 乳腺（MMG）
- 上部消化管
- 超音波（乳腺・小児）
- MRI（頭部・脊椎）

皆様の参加をお待ちしております。

■シンポジウム

第1会場 13:00～14:30

業務拡大

座長 公益社団法人埼玉県診療放射線技師会常務理事
田中 宏

本学術大会のテーマでもある業務拡大とは、大きく二つの意味を持つ。一つは、私たち診療放射線技師の職域の拡大、もう一つは、医療職として患者や国民のために少しでも役に立つ職種になる、ということである。そのためには、自分たちの役割、責務を自ら広げていかなければならない。さらに業務拡大は、大きく二つに分けられる。一つは新たなモダリティを増やすということ、もう一つは現在行っているモダリティの中で、役割や責務を増やすというものである。

今回は、3名の先生方から自施設での経験談、問題点、そのノウハウなどを教授いただき、会場の皆様と共にディスカッションができれば幸いである。

演者

1. 丸山記念総合病院 芦葉 弘志 (あしば ひろし)



プロフィール
技師歴 21年
検診マンモグラフィ撮影認定技師
放射線管理士
放射線機器管理士

2. 小川赤十字病院 松本 洋栄 (まつもと ひろえ)



プロフィール
技師歴 21年
検診マンモグラフィ撮影認定技師
第1種放射線取扱主任者
放射線管理士
放射線機器管理士

3. さいたま赤十字病院 岡田 智子 (おかだ さとこ)



プロフィール
技師歴 5年
検診マンモグラフィ撮影認定技師

■テクニカルディスカッション

第2会場 9:00～10:00

乳腺診療の一員となるために

座長 さいたま赤十字病院
尾形 智幸

演者

視触診・マンモグラフィ・超音波

埼玉協同病院

新島 正美

MRI

埼玉県立がんセンター

松本 智尋

放射線治療

深谷赤十字病院

青木 薫子

テクニカルディスカッション乳腺では、乳腺診療の流れを理解し、より良い画像検査を行うことを目的とする。

平成22年3月に厚生労働省より、チーム医療の推進に関する検討会報告書が出され、診療放射線技師の読影の補助、放射線検査等に関する説明・相談が加えられた。乳腺に関してはマンモグラフィでのカテゴリ分類もその範疇に入るが、そのことにより、カテゴリ分類の判定に対する責任・重みを受け止め、判定を受けた患者が、どのように検査が進められて行くかを、患者側・医療側それぞれの立場を理解し、乳腺診療に携わる者として、最大限有用な情報を提供できるようにしたい。

そこで今回のテクニカルディスカッションでは、3名の演者に、それぞれのモダリティが乳腺診療にどのような手順で行われ、治療にまで至るのかを教授いただき、会場の皆様とディスカッションできたら幸いである。

■テクニカルディスカッション

第3会場 10:00～11:00

**第1回臓器別に考える：頭部領域
～虚血性脳疾患～**

座長 上尾中央総合病院
佐々木 健

演者

CT：埼玉医科大学総合医療センター	栗原 良樹
MRI：埼玉医科大学国際医療センター	森田 政則
核医学：埼玉医科大学国際医療センター	三原 常径
超音波：上尾中央総合病院	佐々木 健

近年、診療放射線技師も各種認定・専門技師制度が充実してきており、装置特性だけでなく画像読影、疾患鑑別まで求められています。平成22年4月30日、厚労省医政発0430第1号「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について」が通達されました。ここでは、基本的な考え方として「各医療スタッフの専門性を活用して、患者・家族とともに質の高い医療を実現するためには、各医療スタッフがチームとして目的と情報を共有した上で、医師等による包括的指示を活用し、各医療スタッフの専門性に積極的に委ねるとともに、医療スタッフ間の連携・補完を一層進めることが重要である」としています。

診療放射線技師の役割として、放射線治療・検査・管理や画像検査などに関する業務が増大する中、当該業務の専門家として、医療現場において果たし得る役割は大きなものとなっています。診療放射線技師の積極的活用として、画像診断における読影の補助を行うこと、放射線検査等に関する説明・相談を行うことの二つが求められています。しかし、多くの施設ではモダリティ数や業務ローテーションの都合上、また各モダリティの高度化・専門化により、全てのモダリティを網羅し疾患鑑別を行うことが困難になってきています。そのような中、読影の補助を託された、我々診療放射線技師は、従来のモダリティ別ではなく、臓器・疾患別に学んでいく事も重要であると考えています。

そこで今回、虚血性脳疾患に焦点を絞り、参加者の皆さんとディスカッションできればと思い「テクニカルディスカッション～臓器別に考える～」を行います。今後、本学術大会では、臓器別にこの企画をシリーズ化して参りますので奮ってご参加ください。

想定ケース

夜間救急、技師一人。

頭部CTにて虚血が疑われる。

あなたはどうしますか？

皆さんと一緒に学んでいければと思っています、ぜひご参加ください。

■ランチョンセミナー

第1会場 12:00～13:00
共催：第一三共株式会社

「国際学会のエントリーと楽しい過ごし方」
講師：国立病院機構 埼玉病院 石原 敏裕 氏

MEMO

Dotted lines for memo writing.

一般演題目次

演題群 I ~ XI

巻頭言

会告

お知らせ

学術大会

学術寄稿

本会
の
き

報
告

各支部
勉
強
情
報

各支部
示
板

会
員
向
の

自由
投稿

議
事
録

役
員
名
簿

申
込
書

求
人

投
稿
規
程

年
間
ス
ケ
ル

■一般演題目次

■一般撮影①		演題群 I
		第 1 会場 09:00 ~ 10:00
座長：北里大学メディカルセンター 今花 仁人		
① 撮影画像に対する特性曲線の最適処理について	AMG 上尾中央総合病院	橋本 寛子
② 当院 CR システムにおける EI 値と撮影条件の関係	AMG 上尾中央総合病院	吉澤 英範
③ 柱状結晶型 CR プレートによる乳幼児股関節撮影の被ばく低減	埼玉県立小児医療センター	菅野みかり
④ 乳幼児用柱状結晶型 CR プレートにおける測定デバイスの違いによる解像度特性への影響	埼玉県立小児医療センター	織部 祐介
⑤ FPD における幾何学的不鋭が画像に及ぼす影響	埼玉県済生会川口総合病院	森 一也
⑥ ワイヤードフラットパネルディテクタ装置の基本的物理特性の検討	埼玉県済生会川口総合病院	瀬尾 光広
■一般撮影②		演題群 II
		第 1 会場 10:00 ~ 11:00
座長：埼玉県立小児医療センター 横山 寛		
⑦ 腹部臥位撮影における最適条件の検討	AMG 上尾中央総合病院	伊藤 玲香
⑧ 長尺撮影の画像評価	さいたま赤十字病院	櫻庭 歩
⑨ 膝関節軸位撮影における補助具作成の試み	AMG 上尾中央総合病院	仲西 一真
⑩ モンテカルロ計算による X 線撮影時の実効線量の算出	埼玉県立小児医療センター	榎戸 義浩
⑪ 当院におけるグリッド無し腹部ポータブル撮影の試み	AMG 上尾中央総合病院	飯島 竜
⑫ ワイヤレス FPD システムと CR システムの比較検討	埼玉社会保険病院	八木沢英樹
■ CT ①		演題群 III
		第 1 会場 14:30 ~ 15:30
座長：埼玉医科大学病院 戸矢 雅人		
⑬ FBP 法における画像再構成パラメータが画像に与える影響-simulation study-	埼玉医科大学総合医療センター	細井 慎介
⑭ 2 管球システムを用いた撮影プロトコルの物理特性評価	埼玉県済生会川口総合病院	豊田 奈規
⑮ Fast kV switching Dual energy 撮影法を用いた試料径の変化における物質密度定量解析の基礎的検討	埼玉県済生会栗橋病院	内海 将人
⑯ 大綱によるバンドで絞扼性イレウスを呈した症例の検討	AMG 東大宮総合病院	中村 哲子
⑰ 知的障害者の異食による麻痺性イレウスの検討	AMG 東大宮総合病院	茂木 雅和
⑱ 埼玉 CT 認定講習会における実績報告 (4 回) と今後の検討	埼玉県済生会川口総合病院	富田 博信
■ CT ②		演題群 IV
		第 1 会場 15:30 ~ 16:20
座長：小川赤十字病院 田中 達也		
⑲ 冠動脈 CT におけるランジオロール塩酸塩静注による心拍数減少効果の検討	所沢ハートセンター	柴 俊幸
⑳ 80 列 CT 装置における心電同期 CT-AEC 機能の基礎的検討	所沢ハートセンター	柴 俊幸

■一般演題目次

- 21 64列 CT 装置における CT-AEC の基礎的検討 所沢ハートセンター 柴 俊幸
- 22 ガントリー中心から離れた場合の頭部撮影 AMG 東川口病院 北谷 裕介
- 23 頭部 CTA における造影剤-生理食塩水同時混合注入による Test Injection 法を用いた撮影時相推定の検討 埼玉医科大学総合医療センター 大塚 和也

■学生

演題群 V

第2会場 10:00 ~ 10:50

座長：千葉県済生会習志野病院 越沼 沙織

- 24 CT 装置における基礎性能評価と均一性について 日本医療科学大学 金親 佑弥
- 25 単純逆投影法について 日本医療科学大学 島田 祐
- 26 腎動態シンチグラフィにおける糖尿病性腎症の検討 日本医療科学大学 小川 智久
- 27 RTPS における計算アルゴリズムの検討 日本医療科学大学 佐藤 圭太
- 28 放射線治療の位置決め撮影における Cone-Beam CT の最適条件の検討 日本医療科学大学 原井 香織

■Angio

演題群 VI

第2会場 13:00 ~ 13:50

座長：埼玉県済生会栗橋病院 宝田 順

- 29 PCI 支援アプリケーションの特性についての検討 埼玉県済生会川口総合病院 倉持 正樹
- 30 当院における心臓カテーテル検査での放射線技師の役割 埼玉医科大学国際医療センター 駒形 一成
- 31 埼玉県内における頭部領域 IVR 被ばく線量の現状~最適化へ向けて~ 埼玉 CBCT - TM AMG 上尾中央総合病院 吉野 和広
- 32 埼玉県内における頭部領域 IVR 被ばく線量の現状~最適化へ向けての撮影条件と画像特性~ 埼玉 CBCT - TM 埼玉医科大学総合医療センター 河原 剛
- 33 PCI 施行時に左外腸骨動脈仮性動脈瘤をきたした症例の検討 所沢ハートセンター 柴 俊幸

■TV・US

演題群 VII

第2会場 14:00 ~ 15:00

座長：さいたま赤十字病院 大森 正司

- 34 FPD 搭載 X 線 TV 装置の多目的使用の有効性 AMG 越谷誠和病院 笹川 拓也
- 35 十二指腸腫瘍に対する低緊張性十二指腸造影 埼玉協同病院 安部小百合
- 36 注腸 X 線検査における前処置の検討 さいたま市民医療センター 渋谷 秀貴
- 37 C アーム型 FPD 搭載多目的デジタル X 線 TV 装置の被ばく線量評価 埼玉医科大学病院 新井 勇輔
- 38 造影超音波検査における肝血管腫の検討 埼玉協同病院 伊藤 紘子

■マンモ

演題群 VIII

第2会場 15:00 ~ 16:00

座長：埼玉県立がんセンター 横山 恭子

- 39 乳腺領域におけるエラストグラフィの有用性 埼玉協同病院 新島 正美
- 40 検診 MMG の業務改善の検討 AMG 伊奈病院 成田 悠子

■一般演題目次

- 41 当院におけるデジタルマンモグラフィ専用品質管理ツールの性能評価
石心会 さやま総合クリニック 原田亜里沙
- 42 マンモグラフィ検査におけるアンケート調査の報告
埼玉医科大学病院 磯野麻衣子
- 43 当院におけるマンモグラフィ CAD の検討
丸山記念総合病院 木村 浩明
- 44 良性葉状腫瘍に非浸潤性乳管癌を合併した症例の検討
AMG 東大宮総合病院 中村 哲子

■治療・RI・読影補助

演題群区

第3会場 09:00～10:00

座長：AMG 上尾中央総合病院 渡部 敬洋

- 45 当施設における放射線治療計画の検討
埼玉医科大学病院 小堺 裕章
- 46 Picket Fence Test における Film、CR プレート、EPID を利用した Error 検出能の統計学的検討
埼玉県厚生連 久喜総合病院 齋藤 俊樹
- 47 脳血流 SPECT における連続回転収集体動の検討
埼玉県立小児医療センター 金原 幸二
- 48 埼玉県における診療放射線技師による読影の現状について
AMG 上尾中央総合病院 中山 勝雅
- 49 一次読影におけるフォーマット作成と検証
AMG 東大宮総合病院 茂木 雅和
- 50 地域医療ネットワークシステムについて ～診療放射線技師の立場から～
加須市医療診断センター 栗原 智之

■医療安全・チーム医療

演題群X

第3会場 13:00～14:00

座長：深谷赤十字病院 齋藤 幸夫

- 51 3DCT 画像による X 線防護衣評価
AMG 上尾中央総合病院 小島 久実
- 52 当院における外来一般撮影の患者確認にかかわる行為の検討
春日部市立病院 金子 初穂
- 53 一般撮影における疑義照会の現状
小川赤十字病院 高井 太市
- 54 患者誤認『ゼロ』への取り組みがもたらした業務に対する心境の変化
AMG 上尾中央総合病院 佐々木庸浩
- 55 CT 勉強会を開催して
AMG 上尾中央総合病院 金野 元樹
- 56 科内での造影剤検査に対する安全管理の取り組み
AMG 東大宮総合病院 笹原 重治

■MRI

演題群XI

第3会場 14:00～14:50

座長：埼玉医科大学病院 市川 隆史

- 57 1.5TMRI 装置における RESOLVE の画像歪み率の評価
石心会 狭山病院 小谷野裕也
- 58 MRI 対応ペースメーカー植込み患者に対する当院での検査体制
AMG 上尾中央総合病院 石川 応樹
- 59 不整脈時における NATIVE を用いた下肢動脈描出の基礎的検討
埼玉県済生会栗橋病院 岩井 悠治
- 60 PACE 併用 MRCP (3D-TSE) における呼吸不安定時の対応
埼玉県済生会栗橋病院 小見川翔大
- 61 当院における乳腺 MRI の分解能の検討
石心会 狭山病院 坂口 功亮

一般演題抄録

演題群 I ~ XI

巻頭言

会告

お知らせ

学術大会

学術寄稿

本会の動き

報告

各支部の
活動情報

各支部の
掲示板

会員
の動向

自由
投稿

議事
録

役員
名簿

F
A
X
申込書

求人
コーナー

投稿
規程

年間
スケジュール

演題群 I 一般撮影①

①撮影画像に対する特性曲線の最適処理について

○橋本 寛子 藤巻 武義 佐々木 健 吉井 章
AMG 上尾中央総合病院

【要旨】

現在、X線単純撮影ではデジタル画像が主流であり、以前のスクリーンフィルム系に比べ、X線量の多寡による適正濃度の逸脱はほぼなくなったといえる。しかし、デジタル画像の利点である濃度やコントラストの変更により、濃度にバラツキが生じてしまっている。そこで今回、CRに表示される特性曲線とヒストグラムにより、臨床提出画像の濃度の統一化が可能であるか検討したので報告する。

②当院 CR システムにおける EI 値と撮影条件の関係

○吉澤 英範 滝口 泰徳 高橋 康昭 佐々木 健 岡村 聡志 福田 光康
AMG 上尾中央総合病院

【要旨】

当院で使用している Care Stream 社製 CR システムでは、関心領域（以下 ROI）内に入った平均線量の指標として EI (Exposure Index) 値が利用されている。EI 値は、ROI の認識状況によって、適正な線量であったとしても理想の値を示さない場合がある。そこで今回、いくつかの因子に対する EI 値の影響を調査し、検討したので報告する。

③柱状結晶型 CR プレートによる乳幼児股関節撮影の被ばく低減

○菅野 みかり 織部 祐介 原田 昭夫 藤田 茂 横山 寛 松田 幸広
埼玉県立小児医療センター

【要旨】

先天性股関節脱臼は定期的な撮影が必要であるが、生殖腺部位が含まれるため、撮影線量の低減が望まれる。当センターにおける先天性股関節脱臼の撮影は、塗布型 CR プレートをを用いているが、柱状結晶型 CR プレートは物理特性が良く、被曝低減が可能である。そこで今回、先天性股関節脱臼の撮影における塗布型 CR プレートと柱状結晶型 CR プレートの比較・検討を行ったので報告する。

④乳幼児用柱状結晶型 CR プレートにおける測定デバイスの違いによる解像度特性への影響

○織部 祐介 菅野 みかり 原田 昭夫 藤田 茂 横山 寛 松田 幸広
埼玉県立小児医療センター

【要旨】

以前の研究で、当センターの未熟児・新生児に対する撮影に用いられる乳幼児用柱状結晶型 CR プレートの物理特性の評価を行った。しかし、物理特性の結果は用いる測定デバイスの種類により大きく影響を受ける。本研究では、解像度特性を測定する際に用いる測定デバイス（エッジデバイス）の種類をタングステン板、銅板、アルミニウム板、ステンレス板と変化させ、その影響について検討したので報告する。

⑤ FPD における幾何学的不鋭が画像に及ぼす影響

○森 一也 土田 拓治 菊地 優貴 富田 博信
埼玉県済生会川口総合病院

【要旨】

一般撮影領域では、被写体-検出器間距離が離れることで生じる幾何学的不鋭（半影）による鮮鋭度低下がしばしば見られる。半影は拡大率および、焦点サイズに依存する。撮影部位によっては、被写体-検出器間距離が大きくなってしまい、半影が画像に大きく影響を与えることがある。今回、カセット型の間接変換型 FPD を用いた物理評価により、半影が画像にどの程度影響を与えるのか、検討を行ったので報告する。

6]ワイヤードフラットパネルディテクタ装置の基本的物理特性の検討

○瀬尾 光広 森 一也 土田 拓治 富田 博信
埼玉県済生会川口総合病院

【要旨】

当院では、今年度よりワイヤードフラットパネルディテクタ装置を新たに導入し、運用している。そこで解像度特性 (modulation transfer function:MTF)、ノイズ特性 (normalized noise power spectrum:NNPS)、および検出量子効率 (detective quantum efficiency:DQE) を求めて物理的評価を行い、従来から使用している CR カセット型イメージングプレートと比較検討したので報告する。

演題群Ⅱ 一般撮影②

7]腹部臥位撮影における最適条件の検討

○伊藤 玲香 安達 沙織 柳沢 啓 柿崎 紗織 土岐 義一 佐々木 庸浩 吉井 章
AMG 上尾中央総合病院

【要旨】

現在、当院の腹部 X 線単純撮影は立位・臥位の 2 方向が基本である。腹部立位撮影は FPD の自動露出機構により撮影条件が決定されているが、臥位撮影では CR を用いており、撮影条件を体厚によって、経験則で判断しているのが現状である。経験の浅い 1～2 年目では撮影条件設定に迷う事が多い。そこで自動露出機構を用いた立位撮影条件を指標として、腹部臥位撮影での最適条件の検討をしたので報告する。

8]長尺撮影の画像評価

○櫻庭 歩 尾形 智幸 大森 正司 松本 明男
さいたま赤十字病院

【要旨】

当院で行っている全脊椎撮影と両下肢全長撮影は、CR 長尺カセットによる撮影と、ショット撮影法によるチルト方式およびステップ方式が可能である。しかし、運用上検査室の使用状況によりモダリティが変わり、撮影手技に一貫性が無かった。今回、新機器導入によってスロット撮影法が可能になったので、手技を見直すとともに各モダリティの精度や利便性を比較検討した。

9]膝関節軸位撮影における補助具作成の試み

○仲西 一真
AMG 上尾中央総合病院

【要旨】

当院の膝関節軸位撮影は、被験者が膝関節を屈曲し、座位にてカセットを保持しながら尾頭方向で入射する方法で行なっている。そのため上半身への不要な被ばくや、カセットを保持できない場合、介助に入る撮影者の被ばくが問題である。

そこで今回、カセットを保持するための補助具を比較的安価かつ簡易的に作成し、使用前後で比較検討したので報告する。

10]モンテカルロ計算による X 線撮影時の実効線量の算出

○榎戸 義浩 藤田 茂 田中 宏 小島 英之 松田 幸広
埼玉県立小児医療センター

【要旨】

X 線撮影での医療被ばくが重要な問題になっており、X 線撮影・透視そして CT 検査での体内臓器の被ばく線量や実効線量を求めることが出来る計算ソフトが発売されている。モンテカルロ計算手法により実効線量を表示出来るソフトを二つ使用し、これらのソフトによる小児における X 線撮影・透視での実効線量、CT 検査時の実効線量を求める機会がありましたので、その結果について報告する。

11 当院におけるグリッド無し腹部ポータブル撮影の試み

○飯島 竜 佐々木 健 中山 勝雅 吉井 章
AMG 上尾中央総合病院

【要旨】

当院では、腹部ポータブル撮影時グリッドを使用しているが、使用頻度の増加で表面や辺縁部が損傷してきた。X線が斜入することにより、画像にモアレや障害陰影が発生し、再撮影のリスクが上がると考えられるため、デジタル画像処理を用いることで画質を担保し、グリッドを使用せず撮影できるかをC-Dファントムを用いて検討したので報告する。

12 ワイヤレス FPD システムと CR システムの比較検討

○八木沢 英樹
埼玉社会保険病院

【要旨】

今回、当施設はCRシステムを変更し、FPDシステムを導入した。ポータブル回診車装置にワイヤレスカセット FPD システムを搭載、ワイヤレスカセット FPD システム内の各ユニット間で無線を使用して業務を行うこととなった。付属品としてPDF、バーコードリーダーを使用。

以前使用していたCRシステムと比べ、ワイヤレスカセット FPD システムの使用より、検査時間、業務効率、問題点などを述べたいと考える。

演題群Ⅲ CT ①

13 FBP 法における画像再構成パラメータが画像に与える影響 -simulation study-

○細井 慎介 鈴木 佳也 塩沢 努 小林 芳春
埼玉医科大学総合医療センター

【要旨】

高速スキャンが多用される近年では、管球回転速度が上がると、DASのスイッチング性能や検出器のアフターグローの影響でview数の減少が予測される。しかし、実際にview数による影響があるのかを確認することは難しい。そのため、今回は画像再構成の理解を深めるために、汎用パソコンと専用ソフトを用いて画像再構成のシミュレーションを行い、画像再構成に寄与するパラメータが、画像にどのような影響を与えるか物理評価も含め検討を行った。

14 2 管球システムを用いた撮影プロトコルの物理特性評価

○豊田 奈規 城處 洋輔 志藤 正和 富田 博信
埼玉県済生会川口総合病院

【要旨】

当院使用 X 線 CT 装置は、X 線管球と検出器を 2 対搭載した Dual Energy CT であり X 線管球は A システムと B システムで構成されている。150kg 以上の被写体に適応が推奨されている DS XXL プロトコルが搭載されており、FOV が 332mm までは両方のシステム、それより外側を A システムのみで画像再構成している。今回我々は、DS XXL プロトコルとルーチンプロトコルとの比較をするため、各々の物理特性を測定し評価を行ったので報告する。

15 Fast kV switching Dual energy 撮影法を用いた試料径の変化における物質密度定量解析の基礎的検討

○内海 将人 志村 智裕 藤本 啓治 栗田 幸喜
埼玉県済生会栗橋病院

【要旨】

Fast kV switching Dual energy 撮影法は被写体物質密度の定量解析が可能である。今回我々は、大きさの異なる水ファントムに、同一密度で径の異なる試料を封入し、水ファントム径と試料径が密度の定量解析に影響するのか基礎的検討を行った。また新たに導入された Dual energy 撮影法に使用できる、逐次近似応用再構成法が定量解析に及ぼす影響についても検討したので報告する。

16 大綱によるバンドで絞扼性イレウスを呈した症例の検討○中村 哲子 小林 悟史 鈴木 仁史
AMG 東大宮総合病院**【要旨】**

症例は58歳男性。上腹部痛・嘔吐の出現により当院消化器内科を受診。腹部CT検査にて小腸の著明な拡張および液体貯留を認め、腸閉塞の診断にてイレウス管による減圧を開始するとともに外科入院。イレウスの改善が得られず、腹部CTにて静脈の鬱滞を認めたため、腹腔鏡下腸管剥離術を施行。手術歴なしの絞扼性イレウスは臨床上比較的稀な症例であり、読影補助という放射線技師の役割を考慮しつつ検討を行ったので報告する。

17 知的障害者の異食による麻痺性イレウスの検討○茂木 雅和¹⁾ 中村 哲子¹⁾ 島田 雅之¹⁾ 小林 悟史¹⁾ 鈴木 仁史¹⁾ 小島 成浩²⁾
AMG 東大宮総合病院 1) 放射線科 2) 外科**【要旨】**

既往歴に知的障害のある16歳男性。極度の腹痛のため他院にて投薬治療後、改善するも嘔吐・腹部膨満が強く現れたため当院内科受診。腹部膨満はあるも十分な臨床所見が得られず、腹部CTにて麻痺性イレウスの診断。経時検査で十二指腸水平脚に不可解な索状物が見られ内視鏡下異物除去術にて多数のストローが認められた。異食の症例は緊急性の高い場合もあり、知的障害者の特異的な症例として念頭に置き検査にあたる必要がある。

18 埼玉 CT 認定講習会における実績報告（4回）と今後の検討○富田 博信 城處 洋輔
埼玉県済生会川口総合病院**【要旨】**

平成21年度に第1回認定講習会を開催し、以降本年度で4回目を迎えた。昨年度より、日本X線CT専門技師認定機構が立ち上がり、その指定講習会の学習目標と照らし合わせ、従来のCT認定講習会として開催した。本年度は、日本X線CT専門技師認定機構の認定試験対策、部位別撮影法、読影、物理特性測定講義、実習を中心にを行った。今回は、これまでの事業内容などを報告し、今後の方向性に関して検討した。

演題群Ⅳ CT ②**19 冠動脈 CT におけるランジオロール塩酸塩静注による心拍数減少効果の検討**○柴 俊幸 大西 圭一
所沢ハートセンター**【要旨】**

循環器診断のStandardとなりつつある心臓CTであるが、最も良好な画像となる拡張中期再構成をSingle source CTにて行う場合、心拍数コントロールは必須である。本来前処置なしでは収縮末期再構成となる症例に対し、当院では2011年10月よりランジオロール塩酸塩の静注を行い心拍数コントロールに努めたが、推奨された体重当たりの投与量が適正であるか、CT装置における臨床を通じて疑問が生じ、適正投与量の検討を行ったため報告する。

20 80列 CT 装置における心電同期 CT-AEC 機能の基礎的検討○柴 俊幸 大西 圭一
所沢ハートセンター**【要旨】**

近年、CT機器の進歩は目覚ましい。各種被ばく低減機構も様々で、CT用自動露出機構（CT-AEC）もその一つである。従来、心臓CTは特殊な撮影方法により、管電流設定は確立された方法があるとは言い難く、経験則で行っていることが多いとされていた。しかし近年、東芝社製CT装置は、心電同期下におけるCT-AECの使用が可能となり、心臓CT管電流適正化の可能性が期待できる。今回、基礎的な物理評価実験を行ったため報告をする。

21 64列 CT 装置における CT-AEC の基礎的検討

○柴 俊幸 大西 圭一
所沢ハートセンター

【要旨】

CT 検査における被ばく低減および最適化のために、CT 用自動露出機構 (CT-AEC) が用いられてきた。近年登場した日立社製 CT 装置にも同機能が備えられているが、その評価についての報告は未だ少ない。また当装置においては、従来用いられてきた画像 SD による管電流制御に加え、コントラスト・ノイズ比 (CNR) を考慮した線量最適化機構である CNR-AEC も備え、さらなる被ばく最適化が期待できる。今回、基礎的な物理評価実験を行ったため報告する。

22 ガントリー中心から離れた場合の頭部撮影

○北谷 裕介 田村 智將
AMG 東川口病院

【要旨】

当院の CT 検査総数のうち約半数が頭部撮影であり、その大多数を高齢者が占めている。その中で、ガントリーチルト角を最大にしても基準線で頭部撮影ができない方は、頭を上げて撮影をするため、ガントリー中心から離れてしまう。そのため DFOV を通常 300 を 500 に広げ撮影を行っている。(撮影 FOV は 220) 今回、このような撮影に対しガントリー中心から、どの程度離れることによって画質の低下が生じるか検討した。

23 頭部 CTA における造影剤-生理食塩水同時混合注入による Test Injection 法を用いた撮影時相推定の検討

○大塚 和也 鈴木 佳也 塩沢 努 小林 芳春
埼玉医科大学総合医療センター

【要旨】

当院における頭部 CTA の撮影時相は、動脈が強く濃染しつつ、静脈がなるべく濃染しない時相としている。撮影開始時間は、Actual Injection と同じ注入時間に設定した造影剤と生理食塩水を同時混合注入にて Test Injection を行い、動脈と静脈の TDC より決定している。今回、臨床症例から両 Injection より得られた同一断面での動脈と静脈の CT 値を測定し、撮影時相の推定が可能か検討を行ったので報告する。

演題群 V 学生

24 CT 装置における基礎性能評価と均一性について

○金親 佑弥
日本医療科学大学

【要旨】

CT 画像における撮影条件の違いが画像均一性に及ぼす影響について研究した。均一性に影響を及ぼすパラメータを検証した結果、信号量の低下が均一性を悪化させる一因であることが判明した。従って、均一性を保持するためには適切な SN を維持する必要がある。また臨床の現場において各パラメータを設定する際、均一性を考慮することでよりよい画像提供が可能であることが分かった。

25 単純逆投影法について

○島田 祐 上田 大輔
日本医療科学大学

【要旨】

一般撮影装置を用いて単純逆投影法 (back projection) によりファントム画像を再構成し、トモシンセシス (tomosynthesis) 画像、CT (computed tomography) 画像と比較した。単純逆投影法の画像は線状のアーチファクトやボケが多く、エッジ強調処理をすることにより、CT 画像に近づけられると考えられた。

26腎動態シンチグラフィにおける糖尿病性腎症の検討○小川 智久 坂本 重己
日本医療科学大学**【要旨】**

腎動態シンチグラフィは、製剤の経時変化を観察することにより、予後推測や透析導入時期の決定に有用である。また糖尿病性腎症における低蛋白食、アンジオテンシン転換酵素阻害薬の投与や血糖値コントロールなどにより、腎機能障害の進展抑制効果が報告されており、これらの治療効果判定に有用である。本発表では、腎動態シンチグラフィについて調査してまとめたので報告する。

27 RTPS における計算アルゴリズムの検討○佐藤 圭太 佐藤 拓実 桑山 潤
日本医療科学大学**【要旨】**

本研究では、頭部、胸部、腹部に対して、それぞれ Clakson 法、Convolution 法、Superposition 法の線量計算アルゴリズムを用いて治療計画を立て、mean dose および MU 値についての比較・検討を行った。結果、頭部および腹部では各アルゴリズム間で大きな差は生じなかったが、胸部での mean dose は、最大で 192 cGy の差があり、superposition 法が最も小さい値となった。これは、肺野での散乱線の影響を superposition 法では考慮しているため、その分の線量が他のアルゴリズムに比べ低く計算されるためであると考察された。各計算アルゴリズムが、それぞれの治療部位に対してどのくらいの誤差を招くのかを知り、どのような補正を行った上での計算結果なのか知っておくことは、誤差を低く抑え、正確な治療を行うことは大変重要なことだと言える。

28放射線治療の位置決め撮影における Cone-Beam CT の最適条件の検討○原井 香織 望月 安雄
日本医療科学大学**【要旨】**

放射線治療の位置決め撮影に用いられている Cone-Beam CT (以下 CBCT) は、他の位置決め撮影に対し線量が増加傾向にある。そこで CBCT の撮影条件の最適化について検証した。撮影条件のうち、管電流とフィルターとの組み合わせによって、従来の位置決め撮影と同程度の画質を得ることが可能であるか検討した。

CBCT の撮影条件を調べた結果、管電流とフィルターとの組み合わせのマッチングにより従来と同等の画質が得られ、被ばくの低減の可能性も示された。

演題群 VI Angio**29 PCI 支援アプリケーションの特性についての検討**○倉持 正樹 丸 武史 竹房 優 土田 拓治 富田 博信
埼玉県済生会川口総合病院**【要旨】**

PCI 手技において、ステント留置後、後拡張を加えることは、ステントを正確に血管壁に圧着させるため重要である。当院は、2012 年 4 月に島津社製血管撮影装置、BRANSIST safire HF9 を導入し、留置したステントとバルーンの位置関係をリアルタイムに確認できるアプリケーションを使用している。今回、その使用成績 (2012 年 4 月から同年 8 月) より特性の検討を行ったので報告する。

30当院における心臓カテーテル検査での放射線技師の役割○駒形 一成 河原 大悦 鈴木 英之 小林 祐介 大友 正人
辻口 直広 佐々木 悠 小宮山 伸之 丹野 巡
埼玉医科大学国際医療センター**【要旨】**

当院では 2011 年 6 月より、心臓カテーテル検査において医師の了承の下で、清潔下での術者支援を行っている。支援業務としては、デバイスのセッティング・受け渡し、管球操作やフレーミングなどを行っている。これらの業務を通して、被ばくに対する意識や疾患・デバイスなどの知識向上、ひいてはチーム医療の一員としての自覚の向上につながるものと考えている。今回、当院における診療放射線技師の清潔下での術者支援内容について報告する。

31 埼玉県内における頭部領域 IVR 被ばく線量の現状～最適化へ向けて～

○吉野 和広¹⁾ 館林 正樹¹⁾ 丸山 和宏²⁾ 竹房 優³⁾ 清水 隆広⁴⁾
佐々木 健¹⁾ 栗原 卓也⁵⁾ 河原 剛⁴⁾ 富田 博信³⁾
埼玉 CBCT - TM

1) AMG 上尾中央総合病院 2) 埼玉県済生会栗橋病院 3) 埼玉県済生会川口総合病院
4) 埼玉医科大学総合医療センター 5) 石心会 狭山病院

【要旨】

頭部領域 IVR は、頸動脈ステント術の普及やデバイスの進歩と共に年々増加傾向である。しかし、装置メーカーの違いや症例の難易度、検査時間の違いにより施設毎に患者被ばく線量が異なるのが現状である。そこで埼玉 CBCT 研究会では、装置メーカーの違いによる被ばく線量の差を無くす事を目的とし、埼玉県内で異なる装置メーカーを使用している 4 施設の透視、撮影それぞれの入射表面線量を調査、比較をしたのでここに報告する。

32 埼玉県内における頭部領域 IVR 被ばく線量の現状～最適化へ向けての撮影条件と画像特性～

○河原 剛¹⁾ 竹房 優²⁾ 栗原 卓也³⁾ 大河原 侑司⁴⁾
宝田 順⁵⁾ 佐々木 健⁶⁾ 土田 拓治²⁾ 富田 博信²⁾
埼玉 CBCT - TM

1) 埼玉医科大学総合医療センター 2) 埼玉県済生会川口総合病院 3) 石心会 狭山病院
4) さいたま赤十字病院 5) 埼玉県済生会栗橋病院 6) AMG 上尾中央総合病院

【要旨】

第 3 回埼玉 CBCT-TM において、各施設の頭部 IVR 被ばく線量の現状について報告し、透視、撮影線量の差が生じていることが判明した。臨床使用における適正線量を考える上で、設定した撮影条件と画像特性の関係を把握する必要がある。そこで今回、撮影条件決定因子の一つである基準 FPD 入射線量設定値を変化させ、被写体厚 (Al 板) の違いによる SNR と面積線量の関係を把握し、撮影条件設定の最適化へ向けた検討を行ったので報告する。

33 PCI 施行時に左外腸骨動脈仮性動脈瘤をきたした症例の検討

○柴 俊幸 大西 圭一
所沢ハートセンター

【要旨】

経皮的冠動脈形成術 (percutaneous coronary intervention : PCI) を施行するにあたり生じる可能性のある合併症は様々であるが、その一つに穿刺した動脈のトラブルが挙げられる。今回、右冠動脈完全閉塞を責任病変とした、重症 3 枝病変の心筋梗塞に対する PCI を施行した症例において、穿刺部である左外腸骨動脈から仮性動脈瘤を生じ、CT による経時的なフォローアップを経験したため、他のモダリティ結果と共に報告する。

演題群 VII TV・US

34 FPD 搭載 X 線 TV 装置の多目的使用の有効性

○笹川 拓也
AMG 越谷誠和病院

【要旨】

当院では、2011 年 6 月に X 線 TV 装置を島津社製 FPD 装置へと更新した。目的としては、一般撮影室が一部屋しかないので、一般撮影として代用でき、SLOT 長尺撮影も可能であったためである。

今回、X 線 TV 装置が一般撮影としてどの程度有効であったか、SLOT 撮影の臨床での有効性、また一般撮影として利用した時の課題などが見えてきた。さらにメーカーの協力を得て画質の向上など改善した事例を報告したい。

35 十二指腸腫瘍に対する低緊張性十二指腸造影

○安部 小百合
埼玉協同病院

【要旨】

低緊張性十二指腸造影とは、鎮痙剤で蠕動を抑え、十二指腸平滑筋の緊張を緩めた状態で、十二指腸まで鼻から細いチューブを挿入し、直接チューブから造影剤・空気を挿入して撮影を行う検査である。昨年度、当院では 3 症例の低緊張性十二指腸造影を行った。その症例報告と低緊張性十二指腸造影についての説明および考察・検討を行う。

36 注腸 X 線検査における前処置の検討

○渋谷 秀貴 今出 克利
さいたま市民医療センター

【要旨】

従来、前処置方法はブラウン変法のみであったが、2008年、杉野らによる第Ⅲ相臨床試験で、等張性腸管洗浄剤が有用性が高い前処置であるとの報告があり、当院としても2011年4月に採用して検査を行ってきた。採用して1年が経過したところで、新たに採用した前処置法と以前行っていたブラウン変法を無作為に選び、その画像について「画像評価」「腸管内残渣」「攣縮」の3項目を比較検討したので報告する。

37 C アーム型 FPD 搭載多目的デジタル X 線 TV 装置の被ばく線量評価

○新井 勇輔 馬場 美和 菅原 香里 高橋 将史 柳下 友明 小林 博文 山崎 富雄 和田 幸人
埼玉医科大学病院

【要旨】

当院に C アーム型 FPD 搭載多目的デジタル X 線 TV 装置が導入された。高レートパルス透視は透視画像の鮮明化と共に被ばく線量の増大が懸念される。①オーバーチューブ・アンダーチューブ、②パルスレート、③付加フィルタ (Al, Ta)、④ FPD の感度 (High, Low)、⑤リスの有無などの条件を変え、旧装置の II-DR 方式と新装置の FPD-DR 方式の、被ばく線量について評価を行ったので報告する。

38 造影超音波検査における肝血管腫の検討

○伊藤 紘子 新島 正美 安倍 佑子 成田 恵里子
埼玉協同病院

【要旨】

2007年10月から2012年3月まで、当院で行った造影超音波検査において、肝血管腫の診断となった47症例49結節に対してB-modeの画像所見・大きさおよび組織学的性状におけるSonazoidの取り込みの違いや造影パターンの違いなどについて比較検討を行ったので報告する。

演題群Ⅷ マンモ

39 乳腺領域におけるエラストグラフィの有用性

○新島 正美 成田 恵里子 安倍 佑子 伊藤 紘子
埼玉協同病院

【要旨】

超音波診断装置の技術は、各メーカーによって様々なアプリケーションが出されているが、近年では、組織の硬さを色を付けて表現するエラストグラフィが多くメーカーで販売されるようになった。当院でも2007年8月より導入、現在まで良悪性様々な症例を経験し、エラストグラフィの有用性をまとめたので報告する。

40 検診 MMG の業務改善の検討

○成田 悠子 菱沼 寛訓 中山 大樹
AMG 伊奈病院

【要旨】

検診 MMG の質を高めるために、検診受診者に対する満足度調査アンケートおよび、グループ病院に対する MMG 業務調査アンケートを実施した。

その結果を受け、現在の業務内容の見直しおよび、改善を行ったので報告する。

41 当院におけるデジタルマンモグラフィ専用品質管理ツールの性能評価

○原田 亜里沙¹⁾ 大野 香¹⁾ アガフル ジャンス¹⁾ 間山 金太郎¹⁾ 高岡 芳徳¹⁾ 塩野谷 純²⁾
1) 石心会 さやま総合クリニック 2) 石心会 狭山病院

【要旨】

平成24年9月に、富士フイルムメディカル社製直接変換型 FPD 搭載乳房 X 線撮影装置 AMULET とメーカー推奨の品質管理ツールを導入し、日常点検時に使用している。今回、マンモグラフィ検診精度管理中央委員会のデジタル品質管理マニュアルに準拠した性能評価と、品質管理ツールの性能評価を比較したので、報告する。

42 マンモグラフィ検査におけるアンケート調査の報告

○磯野 麻衣子 和田 幸人 平野 雅弥 安江 章則 後藤 正樹
山村 麻衣子 菅原 香里 吉澤 江梨 小川 真理子
埼玉医科大学病院

【要旨】

今日マンモグラフィは乳がん発見に不可欠な検査法であるが、検査対象が乳房という特殊な部分であるため、増加傾向にある検診および精密検査時には、患者心理面でのケアが最も重要と考える。当院では、患者の乳房検査に対する理解を深め、不安と苦痛などの軽減を図る目的でパンフレットを作成し配布してきた。今回撮影室改修に伴い、更なる検査精度向上のため、患者アンケートから、撮影室の環境・技師接遇等について検討したので報告する。

43 当院におけるマンモグラフィ CAD の検討

○木村 浩明 芦葉 弘志 佐久名 孝臣 伊藤 尚光
丸山記念総合病院

【要旨】

2011年3月に当院でCADが導入された。今回、CADを使用した当院でのMMG一次読影のワークフローを紹介する。またCADの特徴を踏まえた症例と、CADを使用していることにより見逃しが防げた症例、事例をまとめたので報告する。

44 良性葉状腫瘍に非浸潤性乳管癌を合併した症例の検討

○中村 哲子 小林 悟史 鈴木 仁史
AMG 東大宮総合病院

【要旨】

症例は74歳女性、平成24年5月右乳房腫瘍を自覚し、当院乳腺外科を受診。初診時右乳房に10×8.5cmの硬く可動性良好の腫瘍を触知。マンモグラフィでは、右乳房C領域に高濃度腫瘍を認めた。病理組織学検査では、良性葉状腫瘍とそれに近接した直径4mmの領域に、非浸潤性乳管癌と診断。葉状腫瘍に乳癌が合併することは、臨床上稀とされていることから若干の文献的考察を加えて報告する。

演題群区 治療・RI・読影補助

45 当施設における放射線治療計画の検討

○小堺 裕章 清澤 真人 保泉 賢司 和田 幸人
埼玉医科大学病院

【要旨】

当施設では、平成19年の埼玉医科大学国際医療センターの開院に伴い、全身照射や呼吸同期照射などの特殊な放射線治療の適用患者は、国際医療センターに移動した。

当施設においては、特定機能病院の枠組みにおいて、通常の外部放射線照射の適用患者の診療を行っている。

今回、当施設での放射線治療患者の疾患別や部位別の統計や、放射線治療計画について検討を行ったので報告する。

46 Picket Fence Test における Film、CR プレート、EPID を利用した Error 検出能の統計学的検討

○齋藤 俊樹 眞壁 耕平 西山 史朗 遠山 正和
埼玉県厚生連 久喜総合病院

【要旨】

高精度放射線治療におけるMLCの精度管理として、一般的にPicket Fence Testを施行する。当院ではIPを利用しているが、他にFilmやEPIDも利用可能である。今回Film、IP、EPIDについて、任意のLeaf Errorを付加し、Error検出能を統計学的に比較検討した。結果は、IPが0.2mmまで有意差を認め、IPを利用したMLC QAは適切に施行されている事が確認できた。

47脳血流 SPECT における連続回転収集体動の検討

○金原 幸二 松本 慎 藤井 紀行 松田 幸広
埼玉県立小児医療センター

【要旨】

第 27 回埼玉放射線学術大会において、脳血流 SPECT における連続回転収集の検討を報告した。当施設では今年度より、99mTc-ECD 脳血流 SPECT において連続回転収集を用いて検査を施行し、体動のある患児に対し、効果を得ている。

そこで今回、連続回転収集において体動が画像に与える影響、小児領域での最適なプロトコールについて再検討を行ったので報告する。

48埼玉県における診療放射線技師による読影の現状について

○中山 勝雅¹⁾ 石川 直哉²⁾ 山口 明³⁾ 小島 仁史⁴⁾ 竹内 信行⁵⁾
1) AMG 上尾中央総合病院 2) 指扇病院 3) 埼玉県立小児医療センター
4) 西大宮病院 5) 社会保険大宮総合病院

【要旨】

平成 22 年 4 月 30 日、厚生労働省より「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について」の通知が出された。診療放射線技師においては「画像診断における読影の補助を行うこと」および「放射線検査等に関する説明・相談を行うこと」が果たし得る役割として期待されている。そこで、埼玉県における診療放射線技師による読影状況の把握を目的に、アンケート調査を行ったので報告する。

49一次読影におけるフォーマット作成と検証

○茂木 雅和 中村 哲子 島田 雅之 小林 悟史 鈴木 仁史
AMG 東大宮総合病院

【要旨】

当院の救急は、夜間帯に読影医が常在していないため、読影の精度は当直医の裁量で決まってしまう。また当直医が画像診断するにあたり異常所見のすくいあげを技師と共に行う事もあり、技師として読影の補助の力が必要となる。そのため、CT に携わる頻度の少ない技師でも医師に読影の補助を頼まれる事も少なくないため、技師サイドから緊急性の高い症例の見落としを極力避けるべく、独自の読影フォーマットを作成・検証したので報告する。

50地域医療ネットワークシステムについて ～診療放射線技師の立場から～

○栗原 智之
加須市医療診断センター

【要旨】

平成 24 年 7 月から利根保健医療圏において、地域医療再生基金を活用した地域医療連携のシステムとして「とねっと」が稼働開始した。ネットワークに参加する当施設の診療放射線技師の立場から、システムと運用について報告する。

演題群 X 医療安全・チーム医療

51 3DCT 画像による X 線防護衣評価

○小島 久実 藤井 紀明 吉井 章
AMG 上尾中央総合病院

【要旨】

X 線防護衣管理は、従事者の被ばくを抑えるために内部遮蔽シートの状況を把握することが重要である。当院では、X 線防護衣の点検を透視下にて行っていたが、点検者の被ばくを考慮し、数年前より CT スカウトビューによる点検方法に変更している。しかし、スカウトビューのみでは、全身タイプ防護衣の重なり部分の評価が困難という問題があった。

そこで今回、3DCT 画像による X 線防護衣の評価を行ったので報告する。

52 当院における外来一般撮影の患者確認にかかわる行為の検討

○金子 初穂 矢崎 一郎
春日部市立病院

【要旨】

患者確認は医療安全の重要な項目である。当院のインシデント報告を見ると患者本人による名のり、ID などの患者確認が行われているにも関わらず、数件の患者誤認の報告がみられる。

当院の外来一般撮影の患者確認にかかわる行為を、タスク分析の手法を使って検討し考察する。

53 一般撮影における疑義照会の現状

○高井 太市 小川 清 山田 伸司 小林 教浩
小川赤十字病院

【要旨】

オーダーリングの中で、オーダー時の左右間違いなどが見られた。8 ヶ月間データを取ると、整形外来からのオーダーに間違いが多いことが分かった。誤撮影を減らすためには、患者とのコミュニケーション時に、部位の確認を取ることが必要不可欠で、今後も継続して確認すべきと考える。

54 患者誤認『ゼロ』への取り組みがもたらした業務に対する心境の変化

○佐々木 庸浩
AMG 上尾中央総合病院

【要旨】

診療放射線技師における業務は、医師・看護師などの他職種に比べ、接する（対応）患者人数は多いが、個々に接する時間は極端に短く、患者とのコミュニケーション・患者誤認などへ対する医療安全面への意識や個々の業務への責任感は軽視されがちであった。当院では、患者本人から『氏名・生年月日』の口頭確認だけでなく『担当患者への自己紹介』をコミュニケーションツールの意味も含め導入を行い、有用性を検討したので報告する。

55 CT 勉強会を開催して

○金野 元樹 佐々木 健 佐々木 庸浩
AMG 上尾中央総合病院

【要旨】

当院では今年度、看護師の知識向上と正常・異常の弁別が出来るようになる事を目的とし、「CT 画像の見方」と題し、解剖部門、頭部・頸部・胸部・腹部・四肢における臨床部門と全6回にわたり勉強会を行ってきた。院内 LAN で広報したところ、医師事務作業補助者や診療情報管理士からの参加もあった。そこで、勉強会参加者にアンケートを取り、チーム医療の中で、我々診療放射線技師に何が求められているかを考察したので報告する。

56 科内での造影剤検査に対する安全管理の取り組み

○笹原 重治 茂木 雅和 志伯 香織 中村 哲子 島田 雅之 小林 悟史 鈴木 仁史
AMG 東大宮総合病院

【要旨】

放射線診断で使用される造影剤は、臨床上大変有意であるが、時に重篤な副作用を誘発する物質である。厚生労働省の取り決める重篤副作用別対応マニュアルでは「投与開始直後から5分以内に生じる事があり、通常30分以内に症状が現れることが多い」と記されている。今回、科内での副作用対策をより整備する必要があると考え、造影剤使用時に予測される事柄をあらかじめ想定し、マニュアル強化に努めたので報告する。

演題群XI MRI

57 1.5TMRI 装置における RESOLVE の画像歪み率の評価

○小谷野 裕也¹⁾ 坂口 功亮²⁾ 篠原 貴紀¹⁾ 高岡 芳徳²⁾ 塩野谷 純¹⁾ 間山 金太郎¹⁾
 1) 石心会 狭山病院 2) 石心会 さやま総合クリニック

【要旨】

MRI 検査では、撮像画像が磁化率の影響を受ける。EPI 法を用いた拡散強調画像 (DWI) は特に影響を受けやすく、画像の歪みが発生しやすい。画像の歪み改善を目的とした RESOLVE (Readout segmented EPI DWI) が開発され、当院の 1.5T MRI 装置に導入された。今回、自作ファントムを用いて、画像の歪み率の評価を行ったので報告する。

58 MRI 対応ペースメーカー植込み患者に対する当院での検査体制

○石川 応樹 土岐 義一 鹿又 憲仁 吉井 章
 AMG 上尾中央総合病院

【要旨】

従来より、ペースメーカー植込み患者においては、MRI 検査は禁忌とされていた。しかし、MRI 対応ペースメーカーの薬事が承認されたことにより、このペースメーカー植込み患者であれば MRI 検査が可能となり、当院でも 10 月 3 日に最初の植込み術を行った。しかし、当院ではそのペースメーカー植込み患者に対する MRI 検査の対応が確立されていない状態であったため、検査施行できる体制を整備したので報告する。

59 不整脈時における NATIVE を用いた下肢動脈描出の基礎的検討

○岩井 悠治 渡邊 城大 西井 律夫 栗田 幸喜
 埼玉県済生会栗橋病院

【要旨】

NATIVE を用いて下肢動脈を描出する場合、Trigger Delay を設定して動静脈の分離を行うが、収縮期は前周期の R 波を基準として撮像する必要がある。しかし、不整脈時は R-R 間隔にずれが生じ分離ができないため、我々は、付加パルスの有無およびパラメータを変化させ、動静脈分離を行なう方法を検討した。パラメータを最適化し、直前の R 波から収縮期を求め、サブトラクション法を使用することで良好な画像が得られた。

60 PACE 併用 MRCP (3D-TSE) における呼吸不安定時の対応

○小見川 翔大 渡邊 城大 岩井 悠治 西井 律夫 栗田 幸喜
 埼玉県済生会栗橋病院

【要旨】

PACE を使用して 3D-MRCP の撮像を行う際は、呼吸が安定していれば良好な画像は得られるが、呼吸の深さや長さにバラツキがあり、不安定な時は描出不良になることを多々経験する。そこで吸気呼気の指示間隔の異なる CD を作成しボランティアで検討した後、臨床で使用し比較を行った。呼吸が不安定な時は撮像中に外部から呼吸指示を続けることによって呼吸が安定し良好な画像が得られた。

61 当院における乳腺 MRI の分解能の検討

○坂口 功亮 小谷野 裕也 篠原 貴紀 高岡 芳徳 塩野谷 純 間山 金太郎
 石心会 狭山病院

【要旨】

乳癌診療において、MR マンモグラフィはその有用性を広く認められており、近年では高分解能な検査が求められている。今年、当院では、1.5TMRI 装置に 16ch breast coil が導入され、多チャンネルコイルにより、SNR が向上したと考えられる。自作ファントムを用いて、Dynamic シーケンスの撮像マトリックスを変化させ、パラメータの検討を行ったので報告をする。

「Discovery CT750HD の使用経験」

埼玉県済生会栗橋病院
放射線科技術科 志村 智裕



図1：病院概観

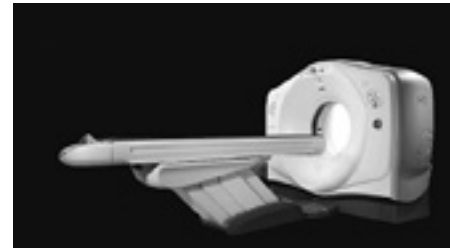


図2：GE社製 Discovery CT750HD 概観

1. はじめに

当院は埼玉県の北東部に位置し、地域救急センター ICU・CCU20床、一般病床290床、感染病床4床からなり、地域連携の推進から地域医療支援病院の承認を受けた地域中核病院である。平成22年1月には既存CTの更新に伴いGE社製64MDCT「Discovery CT750HD」(図2)が導入された。この装置は、新技術が採用されているため、今後の臨床応用が期待される。そこで、今回は導入後2年経過したDiscovery CT750HDの使用経験について紹介する。

2. 装置特長

2-1 Gemstone (ガーネット) 検出器の採用

この検出器は、X線から光への変換速度“Primary Speed”が $0.03 \mu\text{sec}$ と高速で、従来の検出器と比較すると約100倍以上速く応答可能であり、残光特性(アフターグロー)も従来の1/4まで短縮した。これによりNormalモードView数(984View)の2.5倍である2496Viewが収集可能となり、より高解像度なHigh Definition撮影(以下:HD撮影)が可能となった。また新たな技術としてGemstone Spectral Imaging(以下:GSI)が挙げられる。これは、Gemstone検出器により、低圧(80kVp)・高圧(140kVp)の

高速スイッチングで異なるエネルギーを収集する事ができるDual Energy撮影である。収集された生データベースの画像再構成により、物質密度画像(Material Density Image)と仮想単色X線画像(Monochromatic Image)を得ることができる。物質密度画像は物質の弁別が可能であり、仮想単色X線画像はビームハードニング効果・メタルアーチファクトの軽減や各X線実行エネルギーでの仮想単色X線画像を得ることができる。

2-2 Adaptive Statistical Iterative

Reconstruction(以下:ASiR)技術の採用

これは、逐次近似法を応用した再構成法で、空間分解能を損ねることなくノイズ成分を低減させる技術である。ASiRを用いる事により、従来の画質を犠牲にすることなく被ばくを低減する事ができ、被写体の大きさに関係無く安定した画像SDを得ることが可能となった。

これ以外に64MDCTでの4Dイメージングを目的としたVolume Helical Shuttle(以下:VHS)が挙げられる。以下に、これらの特長を持つ「Discovery CT750HD」の使用経験をファントムデータや臨床画像を示し紹介する。

3. 高解像度撮影 (HD 撮影) の応用

まず、HD 撮影が X-Y 平面内の空間分解能におよぼす影響をワイヤーファントムにて評価した。10% MTF は、Normal 撮影 (Std 関数) のガントリーセンターで 0.71mm、14cm オフセンターで 0.91mm となり、HD 撮影 (HD Std 関数) のセンターでは 0.65mm、オフセンターで 0.75mm となった (図 3)。そのためオフセンターにかけての空間分解能の劣化率は、Normal 撮影で 28%、HD 撮影で 15% となり View 数の増加がオフセンターでの空間分解能を向上させることが分かった (図 4)。また高周波数強調関数の使用では、さらなる空間分解能の向上が認められた (図 5)。

この特性は、臨床の画像において顕著に影響する。ガントリーセンターでは、高い空間分解能が得られるため、脳実質、側頭骨、頭部血管など微細な構造が明瞭に描出できる (図 6)。またオフセンターにおける空間分解能の改善は、冠動脈や四肢血管の診断能を著しく向上させた。特に、Half Scan 再構成を使用する冠動脈撮影では、収集データが Normal 撮影 655View から HD 撮影 1662View になることより、ステント内腔評価やブルーミングアーチファクトを低減することができる (図 7)。HD 撮影は、空間分解能の向上はもちろん、様々なアーチファクト低減に有効であり、臨床において有用である。

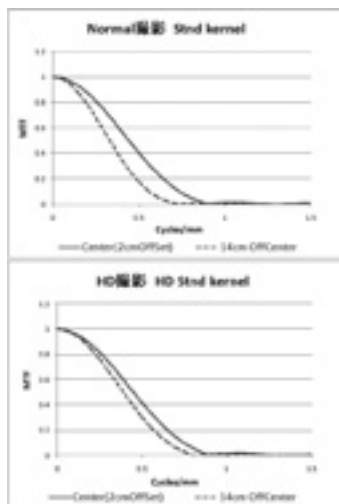


図 3:ワイヤーファントムによる X-Y 平面内 MTF の比較

10% MTF (mm)	Normal 撮影	HD 撮影	改善率 (%)
	Std kernel	HD Std kernel	
Center	0.71	0.65	8
14cm OffCenter	0.91	0.75	18
劣化率 (%)	28	15	

図 4:ワイヤーファントムによる X-Y 平面内 10% MTF の比較

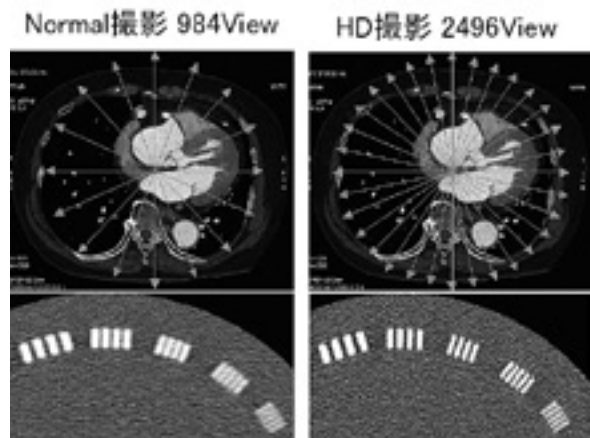


図 5: View 数による空間分解能の比較 (高周波数強調関数使用) ※ GE ヘルスケア提供

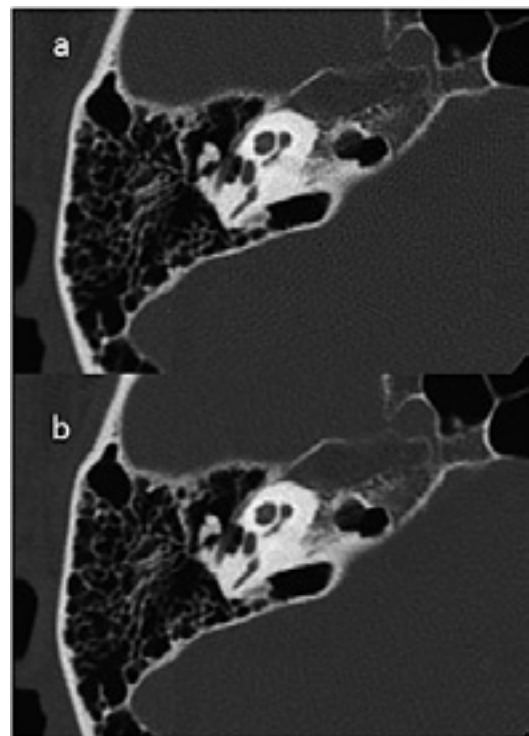


図 6:HR 撮影 側頭骨 (bone 関数) Normal 撮影 984View (a)、HD 撮影 2496View (b)

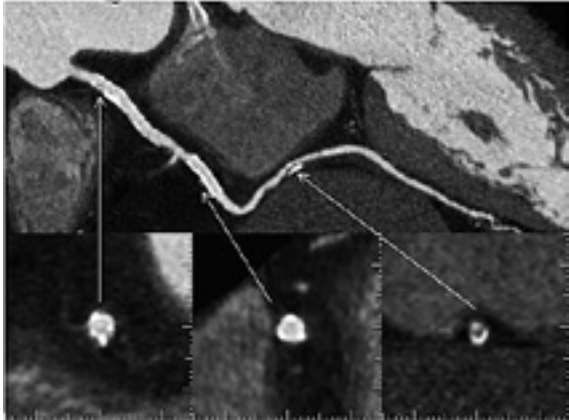


図7：HR撮影 右冠動脈 CPR 像、単軸像

4. GSI の応用

GSI は、複数の物質が混合された物体から物質固有の X 線減弱係数を利用し、物質密度の絶対

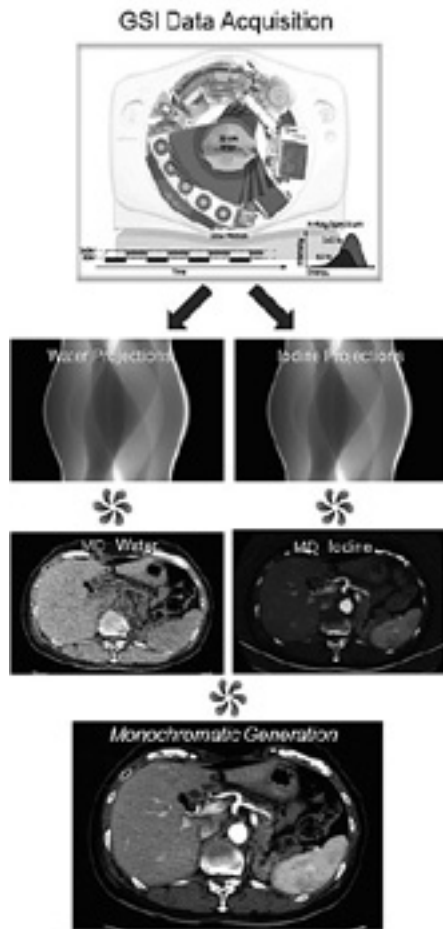


図8：Gemstone Spectral Imaging イメージ

※イラスト：GE ヘルスケア提供

値の測定と物質密度画像が表現できる。また物質の X 線減弱係数に比例した加重加算を行うことにより、正確な CT 値の測定と仮想単色 X 線画像を算出することが可能である（図8）。

ここで、水ファントムに異なる濃度のヨード造影剤を封入し、GSIにより物質密度測定をした結果を示す。図9より、異なる密度を定量評価することは可能であり、実効エネルギーの違いによる CT 値の変化を把握することができた。

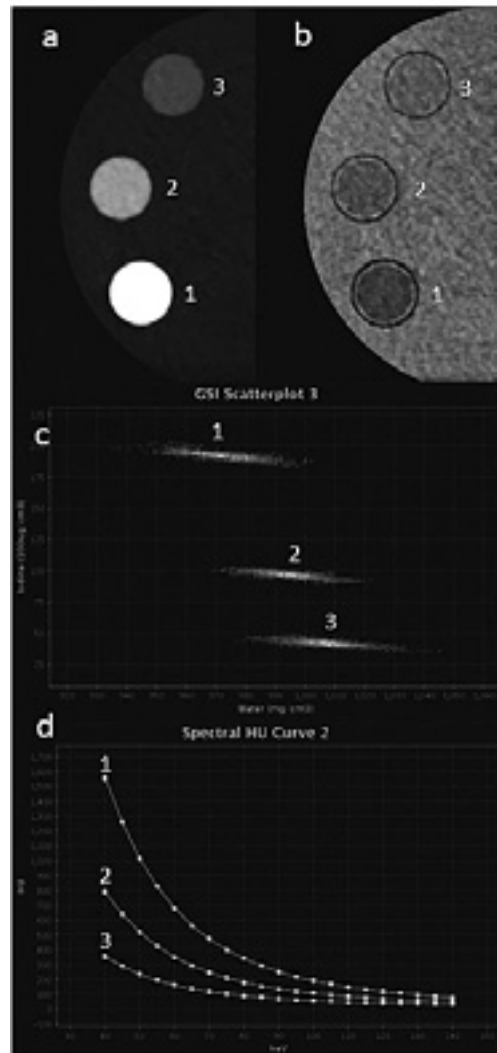


図9：GSIにおけるヨード密度画像 (a)
水密度画像 (b)
各試料の物質密度散佈グラフ (c)
実効エネルギーの違いによる CT 値の変化 (d)

次に、GSIを使用した臨床例を提示する。まず血管系では、動脈硬化に伴う石灰化と血管内造影剤の分離を行うことで、従来困難であった高度石灰化病変の狭窄診断を行うことができる。肺動脈血栓塞栓症は、仮想単色 X 線画像とカラーマップしたヨード密度画像をフュージョンすることで虚血領域を把握する肺血流評価ができ（図 10）、尿管結石では異なる結石成分（尿酸結石、カルシウム結石など）の診断を容易に行なえ、治療方針の参考とすることも可能になった（図 11）。また目的部位の造影能を向上させるため、最適な CNR から実効エネルギーを求め、その仮想単色 X 線画像を使用することにより、良好な腫瘍濃染画像や 3D 画像を構築することもできる。

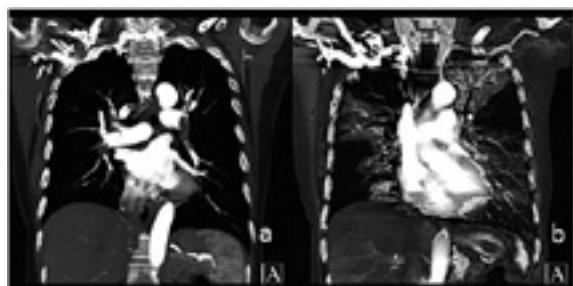


図 10：肺動脈血栓塞栓症
冠状断 MIP 像 (a)
肺血流マップ：MIP 像+ヨード密度画像 (b)

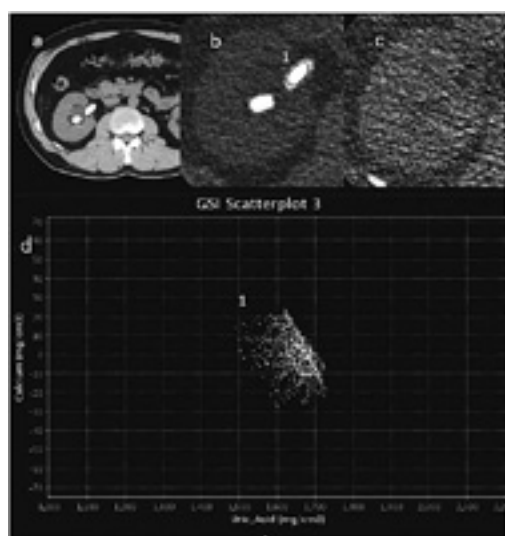


図 11：GSI より右腎尿酸結石が疑われた症例
仮想単色 X 線画像 65keV (a) 尿酸密度画像 (b)、
カルシウム密度画像 (c)、ROI 内物質密度散布グラフ「縦軸：カルシウム密度、横軸：尿酸密度」(d)

5. ASiR の応用

ASiR は、生データベースで統計学的手法を用い逐次計算を行うことで、画像ノイズを軽減させ、低コントラスト検出能を向上させる再構成法である。ASiR 付加の割合は、0% から 100% まで 10% 間隔であり、非線形に最大 50% 程度ノイズを低減することが可能である（図 12）。またノイズの低減は、周波数成分の中～高周波数領域で効果が大きく、付加割合の増加とともに周波数特性は変化する（図 13）。NPS における線形の変化は画像テクスチャーに違和感が生じる原因となるため、ASiR の付加割合は目的部位に応じ十分考慮しなければならない（図 14）。当院での ASiR 付加割合は、頭部 40%、腹部 20～40% であり、肺野は使用する高周波数強調関数でのノイズによるエッジ強調が損なわれない程度の 20% を使用している。3D 構築では、ASiR の付加割合を大きく設定しノイズの影響を小さくすることで、良好な画像が得られている。

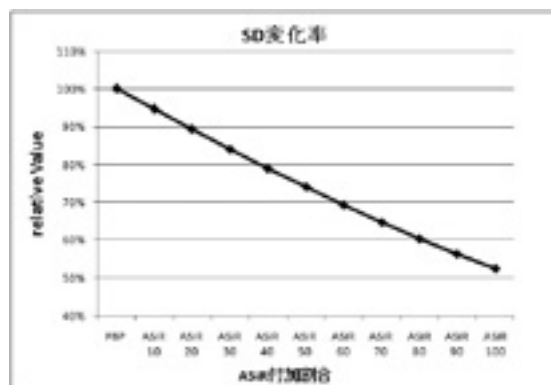


図 12：ASiR 付加割合における SD 変化率

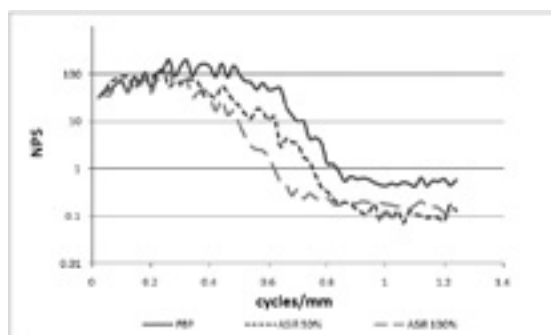


図 13：ASiR 付加割合における NPS の変化 (Std 関数)

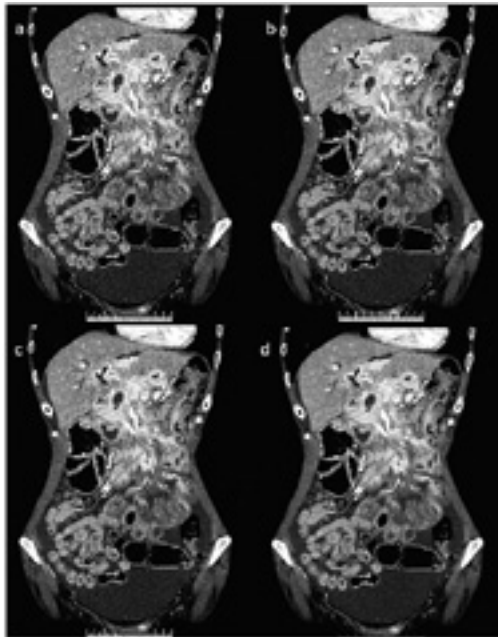


図 14：ASiR 付加の違いによる腹部冠状断像
FBP (a)、ASiR30% (b)、ASiR50% (c)、
ASiR100% (d)

6. VHS の応用

VHS は、コンベンショナルとヘリカルを融合した画像再構成アルゴリズム Dynamic Pitch Cone Beam Reconstruction (DPCB) を使用した撮影法である。最大 312.5mm の撮影範囲を加減速しながら連続的に移動し、オーバースキャンがなく多時相での撮影が可能である (図 15)。この撮影法は時間分解能が優れているため、当院では頭部 Perfusion や肺動静脈などで使用している。頭部 Perfusion は、特長である広範囲撮影により虚血領域が全脳で把握できる。またそのデータを活かすことで、1 時相が 2 秒弱の頭部血管 4D-CTA の構築も可能である (図 16)。肺動静脈撮影では、少量の造影剤と 1 時相あたり約 3 秒の連続撮影により動静脈の分離が容易に行え、胸腔鏡下で行われる術前のシミュレーションとし 3D 構築画像を臨床に提供している (図 17)。使用にあたっては連続撮影による被ばくを考慮し、低管電圧の使用や ASiR 併用による被ばく低減を図っている。

Volume Helical Shuttle Dynamic Pitch Reconstruction

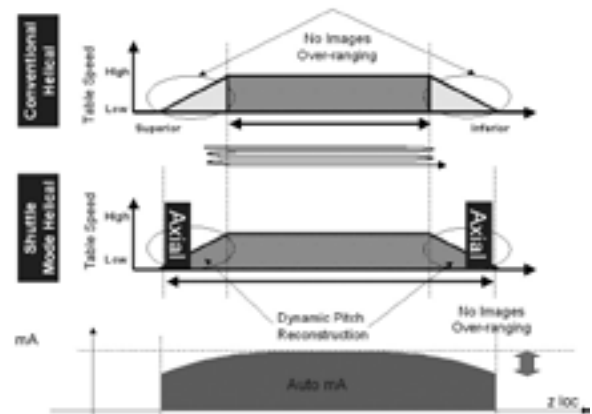


図 15：VHS の画像再構成アルゴリズム
※ GE ヘルスケア提供

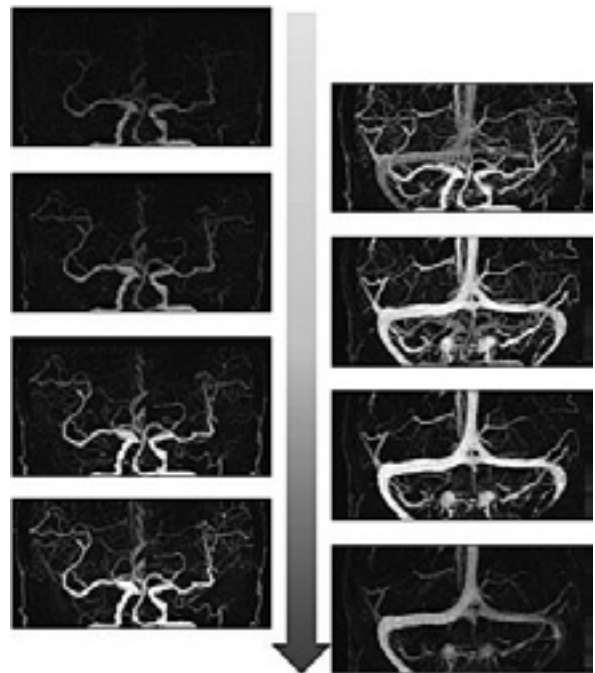


図 16：頭部 Perfusion の元画像から作成した
4D-CTA

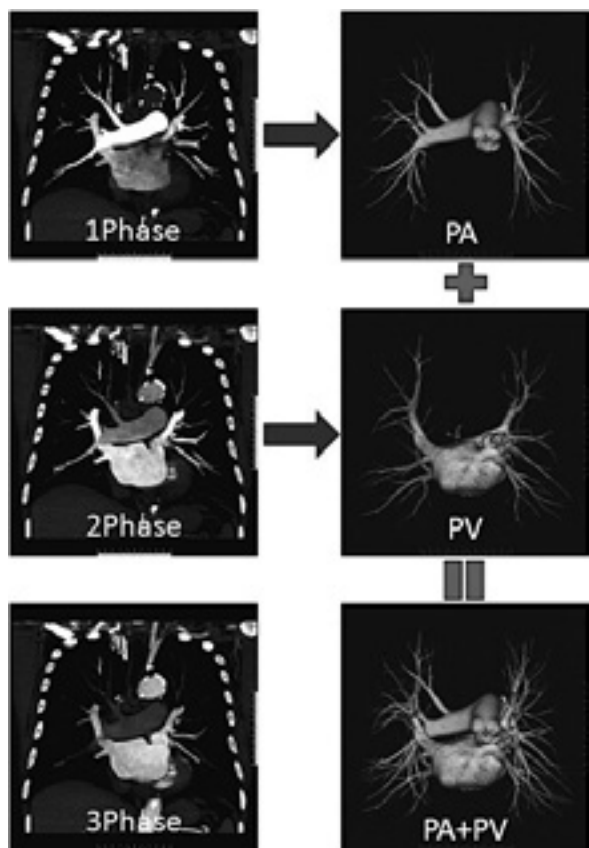


図 17：VHS による肺動静脈の分離
 冠状断 MIP 像 1Phase 肺動脈相、
 2Phase 肺静脈相、3Phase 大動脈相

7. まとめ

今回は、Discovery CT750HD における使用経験を HD 撮影、GSI、ASiR、VHS の物理特性と臨床例を中心に紹介した。Gemstone 検出器と ASiR の採用は、高解像度でアーチファクトの少ない画像と低線量で低ノイズな画像を得ることが可能となった。また GSI における物質密度画像と仮想単色 X 線画像により、今日まで得ることのできなかつたエネルギー分布値での画像と、物質ごとに異なる情報画像により新しい診断の可能性が広がった。

今後は、これらの特長をさらに理解するとともに、様々な症例を経験することで、診断能の向上を図り、より有用な情報を臨床に提供したいと考える。

[執筆者紹介]

昭和 48 年生まれ 39 歳
 技師歴 17 年
 CT 担当歴 7 年

叙勲 瑞寶双光章を受章して

元 医療法人ヘブロン会 大宮中央総合病院
 現 医療法人群羊会 福音診療所
 (株)さいたまメディカルクリエート

渡辺 弘



公益社団法人埼玉県診療放射線技師会会員の皆様にあつかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、私こと平成24年春の叙勲において、埼玉県診療放射線技師会のご推薦を受けはからずも瑞寶双光章受章の榮に浴しました。

これもひとえに、長年にわたり歴代の会長様はじめ、多くの先輩、また同僚の皆様のご指導、ご高配の賜物であり、深く感謝申し上げますと共に、厚くお礼申し上げます。

先の、5月2日埼玉県知事公舎にて、勲記勲章の伝達式があり、6月5日、皇居豊明殿において天皇陛下の拝謁を賜り、あらためて身の引き締まる思いであり、生涯忘れられない喜びの瞬間でした。

昨年、本会は会発足60周年を迎え、そして昨年4月1日より公益社団法人埼玉県診療放射線技師会として、新たな旅立ちをしました。

その記念すべき年のスタート間もない春の叙勲での受章は、長年、会の役員として携わってきた、私にとりましてはより感慨深いものとなりました。

また先日の9月17日に、第六支部石川会長他有志の方と、大宮中央総合病院関係者の皆さんにより祝賀会を企画していただき、さいたま新都心ホテルブリランテ武蔵野において、多くの皆さまのご出席を賜り、盛大に開催することができました事、感謝の思いでいっぱいです。

今後もこの榮譽に恥じることはないよう一層精進し、微力ではありますが、体力の許すかぎり地域医療を担う一員として頑張る所存ですので、何とぞ従前と変わらぬご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。

末筆ながら、公益社団法人埼玉県診療放射線技師会のさらなる発展と、会員皆様の益々のご活躍、ご健勝をご祈念申し上げ、ご報告方々お礼の言葉とさせていただきます。

平成24年度 役員研修会報告

埼玉県診療放射線技師会
 総務委員会常務理事 芦葉 弘志

平成24年度役員研修会が、大宮ソニックシティにおいて11月22日（木）に行われた。研修会の形態はグループディスカッションを取り入れた。当日抽選にてグループを決め、複数の与えられたテーマからグループごとに選択し、活発なディスカッションをしていくものである。今回提示したテーマは次の通りである。

テーマ

- 診療放射線技師のための技師会活動とは
- 県民のためになる技師会活動
- 診療放射線技師が生き残る具体策
- 技師会活動における後輩の育成について
- 技師法改正のビジョン（業務拡大を含めて）
- 診療放射線技師会関連のその他のテーマ

ここでAグループとCグループが同じテーマを希望し、抽選の結果Cグループが希望のテーマとなった。この結果、Aグループは違うテーマを選択することとなったが、まとまりのある活発なディスカッションを繰り広げた。

グループディスカッションのメリットは、日頃話し合えないメンバーと自分の考えやポリシーを語り合えるという事である。またその場でグループ分けされ、与えられたテーマについて自分の考えや仲間の考えを吟味し咀嚼していく。研究発表や業務では準備や実験ができるが、ここでは経験と知識とポキャブラリー、そして発言力などが試される。さらに発表者、報告者に関しても実力を磨くことができるチャンスである。今回参加者は15名であったが、活発なディスカッションができた大変に勉強になった。

今後とも継続開催の事業として、充実した研修会を行っていききたい。以下はグループを代表しての報告である。

Aグループ報告 グループ員（敬称略）

堀江 潮田 矢崎（報告者） 佐々木（発表者） 芦葉

ディスカッションテーマ「診療放射線技師のための技師会活動とは？」

まずは技師会がどのような活動を行っているかを知ってもらうことが必要

- 技師会が行っている活動によるメリットを知ってもらう
- 講習会、研修会に積極的に参加してもらう
- さまざまな施設の人と触れ合う機会がある

技師会活動に触れる機会をつくるには

- 技師会の活動を知っている人を増やす

- 魅力のある講習会、研修会の増加
 - 技師会に気軽に参加できる環境作り（施設の技師長や中堅を巻き込んで）
 - 新診療放射線技師への広報活動
- よりよい技師会活動を目指すためには、技師会に関わってくれる人を増やす努力が必要

- 技師学校へのアピール
- 施設の組織の長である方（技師長）へのアピール
- 中堅層の活発な参加
- 会員外の技師へ活動内容を知ってもらう

活動を支えるのは人である。多くの人が参加することによってつながりができ、それにより魅力ある人材の発掘、よい人材育成の環境の整備がかない、活動が今よりさらに活発となるだろう

Bグループ グループ員（敬称略）

橋本 田中 山田（発表者） 横山（報告者） 大西

ディスカッション テーマ「業務拡大」

【業務拡大とは】

業務拡大には大きく別けて2種類ある。

1. 取り扱いモダリティを増やすなどの業務拡大

例) 乳腺エコーや腹部エコーなどの新しいモダリティの獲得

2. 既存のモダリティの中での業務拡大

例) 一次読影レポートの作成・院内での広報活動（「心臓CTニュース」などの発行）

【業務拡大へのアプローチ】

では、実際に業務拡大を行うためにはどうすればいいのか。

組織（部）として…

1. 知識を得る → 2. アピールする → 3. チャンスを得る → 4. 周囲からの納得
→ 5. 信頼を得る → 業務拡大

一例として、このようなフローが考えられるが、全ては継続することが重要。カンファレンスなどへ参加するだけでも意味があると思われる。

【業務拡大の問題点】

《外部》他部署との問題・摩擦・調整など（業務の重複）

《内部》仕事量の増加に伴う内部からの反発や人員不足

これらの問題点に対し、所属長と現場の役割は異なる。

《所属長》外部との調整や内部の取りまとめ

《現場》謙虚に働く

【結論】

業務拡大とは、我々の職域確保のみならず、患者様のためになる仕事をするにつなると考える。

Cグループ グループ員（敬称略）

小川 富田 栗田（発表者） 城處（報告者） 中村

ディスカッションテーマ「診療放射線技師が生き残る具体策」

診療放射線技師が生き残る具体策としては様々な意見が挙げられたが、大別すると3項目に分類された。一つ目は『個人の能力』であり、厚生労働省医政局長通知の「画像診断における読影の補助を行うこと」もあり、これからの技師にとっては医師と同等な読影能力を目指し、1次読影を積極的に行っていくことが必要である。また新たな業務を獲得することも必要であり、そのためには自身の仕事に枠を設けないことを心掛け、施設内で業務拡張を推進していくべきである。心臓カテーテル検査を例に挙げると、撮影や線量管理だけではなく、カテーテルの操作やその指導を技師が行っている施設もある。X線業務以外では医療情報分野や病診連携における技師の雇用などが挙げられた。二つ目は『施設における存在』であり、技術部の中だけではなく、施設経営にも技師が携わるべきである。高額医療機器を多く扱うため収支を分析して有効的に活用することや、目先の損益だけではなく、5～10年先の長期的な視点が求められる。コスト面のみを重視した機器選定が行われがちであるが、現場の意見を反映できる環境づくりも必要であり、結果として被ばく低減など患者にとって有益な検査が可能となる。ただし、経営に携わる上では幅広い知識、柔軟性、忍耐力、問題解決力など通常の放射線業務とは異なることも必要であり、大学院への修学により高学位取得者を増やすことで経営への参加をアピールすることも手段の一つである。三つ目は『国への交渉』であり、厚生労働省や中医協、工業会などへ直接折衝できる団体は職能団体の日本診療放射線技師会である。看護師は入院患者1人に対する人数によって診療報酬が異なるが、今後は、技師も診療報酬に反映した雇用がされるよう求めていくべきである。いずれにしても、個人の努力無しに成し遂げることはできず、他力本願では生き残ることは難しい。これらの3項目をバランス良く行っていくことで、診療放射線技師が生き残れる道が開けるはずである。



第4回CT認定講習会開催報告

埼玉県診療放射線技師会
 学術委員会常務理事 富田 博信

埼玉県診療放射線技師会で行っている認定技師制度は平成11年に胸部、上部消化管、乳腺の3部門でスタートしました。その後、乳腺は全国統一認定に移行し、2部門で継続して参りましたが、現在はそれらにCTを加え、胸部、上部消化管、CTの3部門で認定を行っております。

今回の埼玉CT認定講習会日程は、平成24年10月27日(土)、平成24年10月28日(日)の2日間終日にわたり埼玉県済生会川口総合病院にて開催され、第3回目に続き、多くの皆様にご参加いただき、県内のCT撮影技術の向上に寄与したと思っております。講習会を受講された皆様におかれましては、お忙しいところ参加していただき、主催者からも感謝申し上げます。

本年度は後半に、埼玉CTテクノロジーセミナーと共同開催をさせていただき、研究発表のポイントや、学会発表におけるスライド作成のポイントなどを、県内若手の診療放射線技師を対象として講義をしました。参加は学生を含め50名程度となり盛会のうちに終了しました。

講師(敬称略)と科目

CT認定講習会 プログラム

平成24年10月27日(土)

9:00～9:15:オリエンテーション

9:15～11:00:日本X線CT専門技師認定機構および埼玉CT認定試験対策

富田 博信 済生会川口総合病院

11:00～12:00:頭頸部CTの撮影法、読影講義

富田 博信 済生会川口総合病院

13:00～14:00:胸部CTの撮影法、読影講義

染野 智弘 羽生総合病院

14:00～15:00:腹部CTの撮影法、読影講義

八木沢英樹 埼玉社会保険病院

15:00～16:00:造影技術概論

中根 淳

埼玉医科大学総合医療センター

16:00～17:00:救急CTの撮影法、読影講義

田中 功

東京女子医科大学東医療センター

平成24年10月28日(日)

9:00～10:00:物理特性講義

城處 洋輔 済生会川口総合病院

10:00～11:00:ファントム作成 実習I

志藤 正和 済生会川口総合病院

11:00～12:30:実習II(MTF、SSPZ、NPS)

双木 邦博 さいたま市立病院

13:30～17:00:埼玉CTテクノロジーセミナー合同企画

以上

平成24年度 MRI基礎講習会開催報告

埼玉県診療放射線技師会
 学術委員会理事 栗田 幸喜

昨年度は「MR 専門技術者認定試験から学ぶ MRI の基本知識」ということで、装置の性能評価項目を中心に講座を開催しました。本年度は過去に行われた認定試験問題から出題頻度の高い基本的な問題と安全に関する問題を抜粋し、解説を含めて“MRIを扱うに当たり知っていて損のない知識”の向上を目的にセミナーを企画しました。解答の作成には時間を要しましたが、当日は専門技師を目指そうとしている方のみならず、県外の方も含めて30名という多くの方の参加をいただき有り難うございました。受講者ならびに協力いただいた方々に感謝申し上げます。

プログラム

平成24年11月18日(日)

12:30～	受付		
13:00～13:20	基礎問題Ⅰ 模擬試験		
13:20～14:20	基礎問題Ⅰ 解説	済生会川口総合病院	浜野 洋平
14:30～14:50	安全管理模擬試験		
14:50～15:50	安全管理解説	獨協医科大学越谷病院	宿谷 俊郎
16:00～16:20	基礎問題Ⅱ 模擬試験		
16:20～17:20	基礎問題Ⅱ 解説	済生会栗橋病院	渡邊 城大
17:20～	質疑応答		

さいたま赤十字病院の講堂にて、平成24年度MRI基礎講習会を行った。今回は過去に行われた磁気共鳴専門技術者認定試験問題(MR認定試験)から基本的な問題と安全に関する問題を抜粋し、一つのセクションを各自約20分で解いていただき、その後、約60分かけて関連事項を含む解答と解説を行った。基礎問題Ⅰとして磁気緩和、付加パルス、傾斜磁場の分野で10問を済生会川口総合病院の浜野先生が担当し、次に安全管理問題として14問を獨協医科大学越谷病院の宿谷先生が担当した。最後に基礎問題Ⅱとして原子核磁気モーメント、SAR、法則、機器、k空間と画像構成の範囲で10問を私が担当した。特に基礎問題ⅠとⅡは、MRIの一番基本となる部分を行ったこともあり、理解しにくく難解な問題が揃った。そのため、受講者からも難しいという意見が寄せられた。時間的にも多くの問題、また十分な説明を行うことができないため、配布した資料は後日に見直すことで理解ができるように、分かりやすく配慮し作成したつもりである。ぜひ参考にさせていただきたい。

安全管理問題は3rd-editionも含め、法からMRIの安全まで幅広い話であった。必ず出題される範囲であり、MR認定試験を受験される方は復習しておくことをお勧めする。今回、行えなかった範囲の問題もまだあり、同様の形式で続きを行ってほしいという受講者の意見も考慮し、どこかの機会で説明できたらと思う。最後に参加していただいた方、模範解答を考えていただいたSMCのメンバーの方、そして当日手伝いをしていただいた大森先生、結城先生に感謝いたします。(講師代表：渡邊城大)

平成24年度 第11回胸部認定講習会報告

埼玉県診療放射線技師会
 学術委員会理事 佐々木 健

平成24年12月2日（日）、第11回胸部認定講習会を行いました。

講習会参加人数は52名と昨年より20名程受講者が増え、胸部単純撮影の大切さを実感しました。

東京都や千葉県からの参加者もあり、埼玉県診療放射線技師会で行っている認定講習会への関心の高さも伺えました。

今年度から小児胸部の項目を加えたところ、大変好評であり、来年以降も継続していきたいと思えます。

当日は急用で来られない講師の方もいらっしゃり、急遽内容を一部変更しましたが、それ以外は大きな問題もなく終えることができました。

内容と講師は以下の通りです。



- | | | |
|----------------------------|--------------|-------|
| ・胸部単純写真の撮影法 | 上尾中央総合病院 | 佐々木 健 |
| ・装置の基礎 | 株式会社島津製作所 | 高濱 広大 |
| ・小児胸部撮影について | 埼玉県立小児医療センター | 横山 寛 |
| ・胸部のCT診断 | 羽生総合病院 | 染野 智弘 |
| ・診療放射線技師に必要な胸部単純撮影の読影（初級編） | 埼玉県立小児医療センター | 田中 宏 |
| ・胸部単純撮影の読影 | 上尾中央総合病院 | 佐々木 健 |

認定試験は平成25年2月24日（日）13:30～15:30。場所をさいたま赤十字病院に移して開催します。多くの認定者が出る事を願っています。

彩の国いきいきフェスティバル参加報告

埼玉県診療放射線技師会
 公益委員会常務理事 中村 正之

平成 24 年 11 月 4 日（日）、伊奈町にある埼玉県県民活動センターにて彩の国いきいきフェスティバルが開催されました。今年で 11 回目の開催だそうです。私たち、埼玉県診療放射線技師会は 2 回目の参加となりますが、公益社団法人としては初めての参加となります。

当日は晴天に恵まれ、2 万人を超える参加者があり大変な賑わいでした。

私たちは昨年同様に、骨密度無料測定、パネル展を行い、骨密度を測定された方は 215 名でした。それに加え今回は、GE ヘルスケア・ジャパン(株)の御好意によりワークステーションも展示し、CT、MRI などの画像も楽しんでいただきました。また昨年来られた方で、今年も楽しみにしていただいた方もおり、有り難く感じています。

最後に、公益社団法人埼玉県診療放射線技師会では、会員の皆様とともに公益活動を行い、県民の皆様との窓口になれるようイベントに参加したいと思います。

平成24年度 関東甲信越診療放射線技師学術大会参加報告

埼玉県診療放射線技師会
副会長 橋本 里見

平成24年度関東甲信越診療放射線技師学術大会が、10月6日（土）～7日（日）の2日間、栃木県宇都宮市にある栃木県総合文化センターおよび宇都宮東武ホテルグランデにて開催されました。この学術大会は、平成21年度から北関東地域と南関東地域の1都9県が、合同で学術大会を開催することになり、今回で4回目の大会となります。本年度は北関東地域の栃木県が担当し開催されました。日程的には前週に日本診療放射線技師会の学術大会が開催され、また同週には日本放射線技術学会秋季学術大会も開催されるという厳しい日程の中、参加者は400人を超え、盛会のうちに大会は終了しました。

今大会は、「日本の今、医療界の今、そして未来へ」というテーマで開催されました。深刻な経済不況と円高、医療費の削減、医療技術の急激な進展、福島第一原発による放射線被ばく、医療の質の向上、チーム医療の推進など、診療放射線技師を取り囲む日本と医療界の現状を見つめ、将来・未来に向けて、今必要なもの、足りないもの、そして学ぶべきものを見つけ出し、「安心安全な医療」を提供していくための「情報と技術の共有」の場にしなければと、大会長の栃木県放射線技師会神山会長が挨拶で述べていました。

学術大会の内容は、特別講演を公益社団法人日本診療放射線技師会の中澤靖夫会長が「日本診療放射線技師会の役割と時代の潮流」と題して、職能団体としての役割と事業について分かりやすく述べていました。他、市民公開講座として、自治医科大学医療安全学教授の河野龍太郎先生による「医療の安全は本当に実現できるのか?」、FM栃木アナウンサーの鹿島田千帆先生による「良い声でコミュニケーション力UP!」の2講座が行われました。教育セミナーは、とちぎ子ども医療センターの古川理恵子先生、済生会横浜市東部病院の船曳知弘先生、一般財団法人Aiセンターの山本正二先生による3題のセミナーが行われました。そしてシンポジウムは、治療・核医学・単純・造影・コンピュータ断層の5部門について「診療放射線技師に今、足りないもの、そして必要なもの?」をテーマに討論が行われました。また一般演題は78題の発表があり、比較的若い年代の会員発表、学生の発表などが多く、今後の診療放射線技師の発展が期待される発表の場となっていました。

さて、この学術大会では栃木県放射線技師会の依頼を受け、特別企画として我々埼玉県診療放射線技師会担当で、フィルムリーディング（読影体験）コーナーを設け実施しました。これは、2年程前の厚労省医政局通知の「読影補助業務」を体験し、各都県放射線技師会で読影に関して今以上の関心を持っていただく目的で行いました。従来の埼玉放射線学術大会で行っているフィルムリーディングを少し発展させ、(株)ドクターネットのご協力により、4モダリティ全てをモニター診断にて行う手法としました。2日間トータルで70人の会員が体験し、当初の予想を上回る来場者となり、目的は達成できたと考えています。

以上、簡単な報告となりましたが、今回の学術大会を担当した栃木県放射線技師会には一昨年から準備されて大変ご苦勞があったと思います。神山大会長をはじめとした実行委員の皆様にご感謝を述べ学術大会参加報告とします。



各支部勉強会情報

第一支部

平成 24 年度地区総会・第 4 回地区勉強会
地区総会

日 時：平成 25 年 2 月 28 日（木）19：00～
場 所：コムナーレ浦和 10 階（浦和パルコ）
13 集会室

第 4 回地区勉強会

日 時：平成 25 年 2 月 28 日（木）19：20～
場 所：コムナーレ浦和 10 階（浦和パルコ）
13 集会室

参加費：500 円

内 容：未定

第二支部

平成 24 年度第 7 回勉強会及び定期総会

日 程：平成 25 年 2 月 7 日（木）
場 所：所沢市保健センター 3F 会議室（予定）
内 容：

1. 地区総会
2. 製品紹介

「CT コロノグラフィー専用炭酸ガス送
気装置プロト CO2L について」

司会 川越胃腸病院 吉村 公一

演者 エーディア株式会社

千葉埼玉エリア 松村 久

3. 学術セッション I

「遠隔画像診断について」

座長 小川赤十字病院 田中 達也

「遠隔画像診断サービスの現状と将来」

演者 (株)ドクターネットサービス部

サービス課 土井 誠

「ドクターネット社遠隔読影サービスの
使用経験」

演者 遠山脳神経外科 西田 大志

4. 学術セッション II

「検診における CTC ～検診施設からの
報告～」

座長 川越胃腸病院 吉村 公一

講師 榎原サピアタワークリニック

伊山 篤

第三支部

第 3 回第三支部勉強会

日 時：平成 25 年 3 月 21 日（木）19：00～

場 所：埼玉医科大学病院 第 2 講堂（基礎医
学棟 1F：本館隣）

内 容：

演題名（仮）フラットパネルの使用経験
（一般撮影）

講師 埼玉医科大学病院 渡辺 嵩広

演題名（仮）デュアルエネルギー（CT）

講師 埼玉医科大学病院 戸矢 雅人

第一支部

報告事項

報告事項

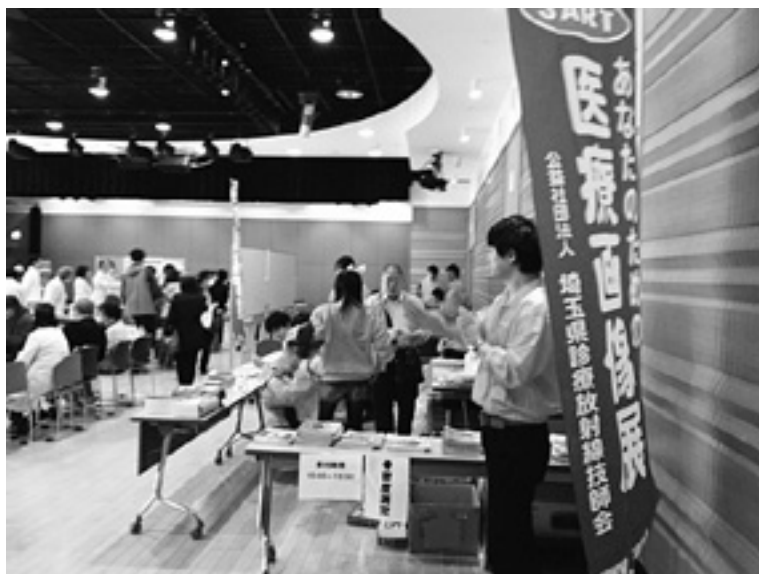
1、「浦和区健康まつり」

日 時：平成 24 年 11 月 3 日（土）10：00～16：00

場 所：浦和コミュニティセンター（浦和駅東口コンナレー 10 階）

参加事業：「無料の超音波式骨密度測定、放射線検査の啓発・説明」

測定人数：320 人



2、第3回 地区勉強会

日 時：平成 24 年 12 月 13 日（木）18：50～20：30

場 所：コムナーレ浦和 9 階（浦和パルコ）15 集会室

参加費：500 円

内 容：Ⅰ. 「放射線科での診療報酬改訂の解釈」

第一三共株式会社 手塚 一明

Ⅱ. 「楽しくなる胃 X 線撮影」

済生会川口総合病院 池田 圭介

Ⅲ. 「冠動脈 MRA 検査の実際」

三愛病院 大塚 忠義

3、地区忘年会

日 時：平成 24 年 12 月 13 日（木）20：50～

場 所：浦和駅東口 Bon Tigger ボン・ティガー

第二支部



「所沢市健康まつり」に参加して

圏央所沢病院 児玉 麗美

平成 24 年 11 月 11 日（日）、所沢市保健センターにて「所沢市健康まつり」が開催されました。当日の天候は曇りでしたが、1200 名の方々が来場されその好評ぶりが伺えました。

第二支部も例年通り「あなたのための、医療画像展」として事業に参画しました。市民注目の骨密度測定は 376 名でした。去年は 215 名、一去年は 350 名でしたので、今年はより多くの方に骨密度測定を体験していただけたのではないかと思います。また参加者の中には、去年の測定結果をお持ちいただく方もおり、結果を比べて委員とお話している光景も見受けられました。普段の診察や検査の時には聞きにくいことも、このような場では気軽に質問することができるのではないのでしょうか。

毎年人気の骨密度測定に加え、サッカーゲームや輪投げなどの子供用ゲーム、お菓子、おもちゃなどもありました。骨密度測定をする父母などを待つお子様だけでなく、通りかかった子供達も興味を持ち、ゲームを楽しんでいました。中には測定を終えられたご年配の方も参加しておられました。

昨年に引き続き所沢市のイメージマスコット「トコロん」も参加しました。「トコロん」は子供達に大人気で何度も記念撮影を頼まれました。放射線ブースは子供達の明るい笑い声が多かったように感じました。

今回、初めての参加でしたが、来場者も多く活気あふれる「所沢市健康まつり」に楽しんで参加することが出来ました。今後とも参加していきたいと思います。

最後に、運営に携わった役員をはじめ、第二支部会員の皆様、本当にお疲れ様でした。

〈実行委員〉

安保 靖彦（所沢市保健センター）	松本 諭一（所沢市市民医療センター）
大西 圭一（所沢ハートセンター）	吉澤 康宏（圏央所沢病院）
梶野 恒三（所沢市市民医療センター）	(五十音順)
児玉 麗美（圏央所沢病院）	
古寺 史一（所沢中央病院）	
千田 俊秀（所沢市市民医療センター）	
中邑 友香（所沢市市民医療センター）	
中村 雄幸（間柴医院）	
藤井 大悟（石心会狭山病院）	
本郷 久利（わかさクリニック）	
前田 有弘（所沢市市民医療センター）	



ここが放射線ブース!



第6回勉強会特別講演座長集約

所沢市市民医療センター
放射線科 千田 俊秀

特別講演として、慶応義塾大学予防医療センター吉田論史先生による「胃癌のX線診断～読影の補助に向けて～」と題して講演をいただいた。

胃癌検診の理念は「救命可能な胃癌の早期発見」であり、その標的病変の大きさは、基準撮影法により読影基準を構築するための指標として、存在診断は10 mm前後、質的診断の場合は25 mm前後としている。

早期胃癌は、腫瘍の粘膜進展に伴う粘膜表面の凸凹変化が主体であり、進行胃癌は腫瘍の深部胃壁浸潤に伴う胃壁の肥厚と硬化像所見が主体である。

画像診断は、病理診断の定義による思考過程を表現していないのが現状であり、X線所見により良悪性の判定を定義することが大きな課題である。

指標別X線所見用語として、陥凹面と大きさ【顆粒状、凸凹不整、平滑、粘膜不整】陥凹境界と形【粗大、波状、顆粒状、棘状、微細、不明瞭】粘膜ひだと配列【中断、ヤセ、消失、肥大、(無)】と定義し、陥凹型早期胃癌読影基準案はX線所見を陥凹面、陥凹境界、粘膜ひだに求めている。

まとめとして、X線的良悪性判定の考え方は、陥凹型早期癌を中心として、①胃癌のX線検診における良悪性判定には、腫瘍の特徴と読影の着眼点を知る必要がある。②陥凹型早期癌と確定しうるX線像には、いくつかの特徴的なパターンがある。③最終病理診断結果が得られない場合でも、X線的な良悪性判定の考え方を分析することで、胃癌X線検診の精度向上に貢献する事ができるとしている。

講演後の質疑応答では、「ABC検診について」の質問が有り、「ABC検診は胃癌になる確率の検査であり、X線検査は、胃癌有無や診断をできる検査で、趣旨が異なる検査である」と位置付けの違いを述べた。

忘年会開催報告

所沢ハートセンター
放射線科 柴 俊幸

日に日に風が冷たくなり、まさに冬の到来を感じ始めた今日この頃。日頃の業務も年末に向け多忙になって行くとは思いますが、そんな中11月27日（火）に毎年恒例の忘年会が開催されました。

皆様も実感としてあるとは思いますが、近年“飲みニケーション”の場というのは日に日に減っているように感じます。家庭の事情やプライベートな用事、または仕事が忙しすぎて…という理由で敬遠せざるを得ない方も多数いらっしゃると思います。

第二支部に所属する施設は、その規模も場所も様々であり、交通についても決して便のいい地域とはいえない現状ではあります（お酒の席を設ける場合では特に…）。そのような中でも先輩技師さんから新人技師の方までご参加いただき、大変有意義な時間を過ごせたと感じます。

業務終了後（もしくは休日）の貴重な時間をいただき、安くはない会費も払って参加するような会ですので、少しでも何かを持ち帰り、今後の業務の、もしくは人生の糧となるような経験になればと思い第2支部ではこのような会を開催させていただいています。

少し話は変わりますが、第二支部では今年度、一・二・六支部および二・三支部合同での勉強会を開催させていただきました。多数の方のご協力もあり、有意義で内容の濃いものとする事ができ、色々な方からお褒めの言葉もいただくことができました。また定期的勉強会につきましても、技師会や県内、職種に関わらず様々な方に講演や座長を引き受けていただきました。普段疑問に思っていることやその先に進むために必要な知識、技術についての講演や質疑応答ができたのではないかと考えます。

しかし「支部開催」という身近な勉強会だからこそ、もっと気楽に参加、もっと気楽に質問をしていただいてもいいのではと感じることが多々あります。自分が疑問に思っていることは、みんなが疑問に思っていることだと考え、積極的に質疑応答をしていただければ、より活発な勉強会になるのではないかと考えます。

今後もこのような忘年会をはじめ、勉強会後の懇親会は開催していきたいと思えます。そして勉強会だけでは足りない時間を、お酒も交えて少し噛み砕いてお話しして補っていただければと思います。

決して強制ではなく、できるだけ多くの方が「技師会の飲み会なら行きたいな」と思えるような、そんな会を目指したいものです。

第三支部

第三支部だより

第三支部理事 庭田 清隆

(1) 第3回 第三支部 勉強会 開催

日 時： 平成 25 年 3 月 21 日 (木) 19:00～

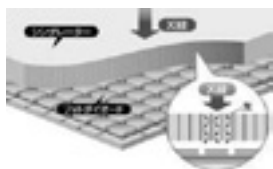
場 所： 埼玉医科大学病院 第 2 講堂 (基礎医学棟 1F: 本館隣)

内 容： 演題名 (仮) ・フラットパネルの使用経験 (一般撮影)

講師 渡辺 嵩広

演題名 (仮) ・デュアルエネルギー (CT)

講師 戸矢 雅人



(2) 平成 24 年度 第三支部 定期総会 開催

日 時： 平成 25 年 3 月 21 日 (木) 20:30～

場 所： 埼玉医科大学病院 第 2 講堂 (基礎医学棟 1F: 本館隣)

内 容： 平成 24 年度事業報告、決算報告、平成 25 年度事業計画案、他

(3) 第3回 第三支部 役員会 開催

日 時： 平成 25 年 3 月 21 日 (木) 21:00～

場 所： 埼玉医科大学病院 第 2 講堂 (基礎医学棟 1F: 本館隣)

内 容： 平成 25 年度事業計画担当、開催日時等、確認事項

(4) 第三支部・第三地区 平成 25 年度事業計画案

- 第 1 回 第三支部勉強会 (平成 25 年 6 月 開催予定)
- 役員会 (平成 25 年 6 月 開催予定)
- 納涼会 (平成 25 年 7 月 開催予定)
- 役員会 (平成 25 年 7 月 開催予定)
- リレー・フォー・ライフ川越 (平成 25 年 9 月 参加予定)
- ボウリング大会 (平成 25 年 10 月 開催予定)
- 役員会 (平成 25 年 10 月 開催予定)
- 川越市健康まつり (平成 25 年 11 月 10 日 あなたのための医療画像展開催)
- 第二支部第三支部合同勉強会 (第 2 回 第三支部勉強会 (平成 25 年 12 月 開催予定))
- 役員会 (平成 25 年 12 月 開催予定)
- 新年会 (平成 26 年 1 月 開催予定)
- 第 3 回 第三支部勉強会 (平成 26 年 3 月 開催予定)
- 役員会 (平成 26 年 3 月 開催予定)
- 平成 25 年度 第三地区 定期総会 (平成 26 年 3 月 開催予定)



第三地区会



(5) 第三地区ボウリング大会開催報告

日時 平成 24 年 10 月 25 日 (木) 19:00~20:00

場所 川越ボウリングセンター

参加者 44 名

今年も第三地区ボウリング大会を開催いたしました。

44名もの方が参加していただき大盛り上がりで開催することができました。



(6) 第 26 回 川越市健康まつり あなたのための医療画像展開催報告

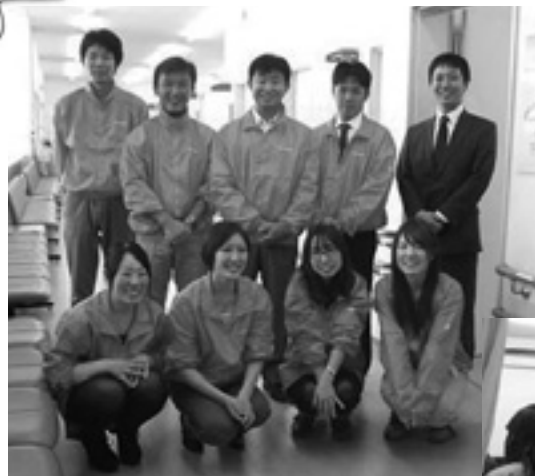
日時 平成 24 年 11 月 4 日 (日) 10:00~14:00

場所 川越市総合保健センター

参加者 10 名 (協力: 東芝メディカルシステムズ (株) 2 名を含む)

回覧者 513 人 (川越市健康まつり総来場者数 3,237 人)

骨密度測定 50 人



川越市マスコットキャラクター
ときも



(7) 第2回 第三支部勉強会開催報告

日時 平成24年11月20日(火) 19:30~21:00
 場所 埼玉医科大学国際医療センター C棟2階会議室
 参加 41名
 内容 当院における乳がん患者の検査から手術まで
 講師 埼玉医科大学国際医療センター 森田 政則
 講師 埼玉医科大学国際医療センター 山口 春果



(8) 第二支部第三支部合同勉強会開催報告

日時 平成24年12月1日(土) 14:00~17:45
 場所 埼玉医科大学川越クリニック 6階 大会議室
 参加 83名
 内容 HOW TO 急性腹症@当直中
 講師 石心会狭山病院放射線科 伊藤 寿哉
 講師 防衛医科大学校病院放射線部 征矢 強
 講師 埼玉医科大学病院中央放射線部 佐々木 剛
 講師 埼玉医科大学総合医療センター中央放射線部 細井 慎介
 講師 埼玉医科大学総合医療センター放射線科 長田 久人 氏



第二支部第三支部合同勉強会を開催、総勢83名の方に参加していただきました。
 今後とも、支部活動を活発とするため出来る限りの情報提供の場を考えております。
 たくさんの方の参加をお待ちしております。



(9) 第二支部第三支部懇親会開催報告

日時 平成24年12月1日(土) 18:30~20:30
 場所 ラ・ボア・ラクテ川越 2階 オリオン
 参加 32名



診療放射線技師 1 年生 川越市健康まつりに参加して

第三支部 埼玉医科大学総合医療センター 石脇 花織

今年度 4 月に診療放射線技師となった私ではありますが、埼玉県診療放射線技師会の『あなたのための医療画像展』実行委員を務めさせていただき、診療放射線技師の仕事について一般撮影・マンモグラフィ・CT 検査・MRI 検査・透視検査・血管撮影など、パネルを用いて来場された方々に説明を行いました。また今回、東芝メディカルシステムズ(株)様よりマンモビューアのデモを行っていただき、乳房撮影から現状のモニタ診断についての説明を行っていただきました。

来場された方の中には放射線検査を受けられたことのある方、これから検査を受けようと思健康まつりに来場された方など様々で、検査がどのように行われるのか、どうして検査によって“前処置”といったものが必要なのかなど質問を多く受けました。またお子さん連れの来場者が多く、展示されている X 線フィルムに興味を持たれていました。お子さんからは普段見ることのない血管の画像や、消化管の画像を見て“自分の体ではどの辺”と興味津々で、子供に分かりやすく説明するにはどうすればいいのかと戸惑ってしまいましたが、普段、病院でしか話すことのない子供達と触れ合う事がとても新鮮に感じられました。

親御さんからは昨年東日本大震災で発生した、福島第一原発事故による被ばくについての質問が多く、被ばくに対する不安から“どの検査でどのくらいの被ばくがあるのか”と言った声が多く聞かれました。展示した自然放射線パネルを用いて医療被ばくについての説明を行いました。私の説明でどれだけ理解していただけたか不安で“まだまだ勉強不足”、“被ばくについての知識を高めなくてはいけない”と痛感する一日でした。

今回、川越市総合保健センターのご協力により、医療画像展のほか骨密度測定を行いました。骨密度測定は先着 50 名と限定して行いましたが、朝早くから“骨密度の測定に来た”、“どこで測定するの”など多くの方が整理券を求め列をなし、人気の高さを感じました。実際に測定を受けられた方に結果をお渡しする時に“ありがとう、これからも食生活に気をつけよう”と言われ、骨密度測定が健康への意識の高まりに繋がっていると実感しました。

休憩のひととき、他団体のブースを見学しました。がん検診・糖尿病・調剤・食事など健康に繋がる催し物が開催され、医師会・歯科医師会・薬剤師会・鍼灸師会など多くの団体が職種を問わず健康まつりを盛り立てるために協力され、自分がその実行委員として参加できたことをとても嬉しく感じました。

今回、川越市健康まつりでお会いすることができた皆さまに、放射線検査についてご理解いただけたか不安ではありますが、来場された方の中には普段通院されていると言う方もおられ、病院での患者様と診療放射線技師の関係とはまるで違った印象を受けました。

わずかな時間ではありましたが健康まつりでのコミュニケーションの場は、これから数十年と続く私の診療放射線技師という仕事において貴重な財産となるに違いありません。

この場をお借りし、今回、実行委員に推薦していただいた埼玉県診療放射線技師会に深く感謝を申し上げます。



第四支部

第7回深谷市福祉健康まつり参加報告

埼玉県診療放射線技師会第四支部は、平成24年10月28日（日）に行われた第7回深谷市福祉健康まつりに参加しました。

今年は「支え合おう！福祉と健康のまち」をメインテーマとし、市民の方々に福祉と健康の意識を高めってもらうため、98の参加団体による様々な催し物が行われました。

第四支部では毎年恒例となっている「パネル展示」・「骨密度測定」・「ヨーヨー釣り」に加えて、栗原医療様、小川赤十字病院検査科の坂上様、桜ヶ丘病院の高橋様のご協力で頸部エコーによる血管年齢測定を行いました。

当日はあいにくの雨模様でしたが、骨密度測定200名、頸部エコー149名と例年同様に、たくさんの方にご来場していただきました。特に、頸部エコーは担当者が休憩返上で行うほどの盛況ぶりでした。

今後も第四支部では継続して福祉健康祭りに参加し、診療放射線技師という職業や技師会の活動について知っていただけるように努力していきたいと思っております。実行委員の皆さん、大変お疲れ様でした。



医用画像展風景



骨密度測定



ヨーヨー釣り



頸部エコー



実行委員

深谷市福祉健康まつり実行委員

会員名	施設名	会員名	施設名
山田 伸 司	小川赤十字病院	萩原 貴 之	行田中央病院
関根 茂 夫	小鹿野中央病院	高橋 強 悦	桜ヶ丘病院
萩本 孝	東松山市立市民病院	坂上 敦	小川赤十字病院 (検査科)
長谷川 英 治	羽生総合病院	高井 太 一	小川赤十字病院
大野 涉	羽生総合病院	小林 茂 幸	深谷赤十字病院
清水 浩 和	熊谷総合病院	坂本 里 紗	深谷赤十字病院
白石 広 子	熊谷総合病院		

第五支部

第五支部

情報交換会

場所は春日部市にある市民活動センター〔ふれあいキューブ〕
会議室をご用意いたします

1月17日 19:00～(予定)

2月21日 19:00～(予定)

詳しくはHP等でご案内いたします。

(気軽にご来場していただいてご意見などお伺いできれば幸いです)

(グチや世間話でもOKです)

テーマなど皆様のご意見をお待ちしています。

第五支部理事 矢崎 (i-yazaki@sart.jp)

情報交換会以外でもご意見ご提案があれば気軽にご連絡ください

越谷市民祭りに参加しました
たくさんの方が来場されました



親睦ゴルフを開催いたしました

16名と多数の参加をいただきました

次回は春です。多数のご参加お待ちしております。

第六支部



埼玉県診療放射線技師会第六支部

発行：埼玉県診療放射線技師会第六支部

1. 巻頭言 学術 竹内 信行
2. 定期講習会報告
3. 忘年会報告

2012年12月2日 平成24年度 第5号

巻頭言

社会保険大宮総合病院 竹内 信行

はじめまして、社会保険大宮総合病院の竹内です。第六支部役員を務めさせていただき約2年経ちますが、引っ込み思案な私は皆さんについていく事に必死で、何も力添えできていません。役員のみなさんの支部会活動でのバイタリティーや仕事に向かう姿勢や考え方を見ていると常々プロフェッショナルな人達だなあと感じています。

平成22年4月30日に厚生労働省より発表された医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進案の中で放射線技師に課された役割の1つに“画像診断における読影の補助”という項目がありました。当院の状況は検診センターで撮影したMDLのチェックを行っていますが、あくまで病変の存在指摘をするくらいです。みなさんの施設ではどうでしょうか。放射線技師がコメントを事細かに書く施設もあれば、そこまで必用としない施設もあると思います。しかし、モダリティーにおけるスペシャリストがいれば病院や医者に頼りにされるし、放射線技師である以上そういう存在になれるよう

がんばっている人も少なくないと思います。

私も何か自信を持てるものを増やしていき、いつかプロフェッショナルな仕事ができるようになりたいものです。

最近「診療放射線技師の職域の拡大」なんて事をよく耳にしますが、正直私は否定的な考えが先行しました。読影の勉強もやらなくては行けないし、HIS、RISなどの医療情報システムやネットワークは複雑で難しいし、確実に仕事量も増えるはずで。技師による読影、画像管理システム、ネットワークの構築、静脈注射（針刺しは除く）など、今後あらゆる仕事の幅が求められる時代になると思います。これからの10年で放射線技師はさらにプロフェッショナルである事、自律的にプロフェッショナルを確立していかなければなりません。先の事を考えると頭が痛くなりますが、日々精進して仕事に取り組みたいと思います。

平成 24 年度 第 2 回定期講習会報告

指扇病院 石川 直哉

平成 24 年 11 月 1 日（木）さいたま赤十字病院にて第 2 回定期講習会が開催されました。今回の定期講習会では 3 講演が行われ、参加人数は、35 人でした。第 1 部のテーマは「スポーツ整形の現場から(疲労骨折について)」で講師は西大宮病院 葛岡 智典様。第 2 部のテーマは「乳癌の症例からみる MMG の基礎検討」で講師は丸山記念総合病院 芦葉 弘志様。第 3 部のテーマは「CT colonography」で講師は埼玉県立がんセンター 松本 智尋様でした。

第 1 部のテーマ「スポーツ整形の現場から(疲労骨折について)」については、参考資料を第六支部ホームページの資料掲載に添付してありますので是非参考にしてください。



忘年会報告

丸山記念総合病院 古谷麻実

11 月 15 日（木）19 時より、旬葉家 介 大宮店にて平成 24 年度の第六支部忘年会が開催されました。

入職まもない方から経験豊富な方まで 30 名を超える参加でした。

他施設の方との交流をもつことができ、私自身とても有意義な時間を過ごすことができました。

忘年会開催を企画していただいた幹事・役員の方々に感謝申し上げます。



Lock ON

— みんなのカプリッチオ —

SART ランニングクラブ通信@上尾シティマラソン 2012

国立障害者リハビリテーションセンター 肥沼武司

雲一つない秋空の下、2012年11月18日（日）、上尾市にてハーフマラソン大会が開催された。SART ランニングクラブはメンバーのほか、久喜総合病院の技師会会員、エーザイさんを加えた10名が、上尾運動公園陸上競技場に集まった。秋色染まる上尾の地を、それぞれ自分の体力に合わせ走り、全員無事完走！ その後は恒例の補給宴会。今回、初マラソンであった、久喜総合病院の齋藤さまに、完走記を頂いたのでご紹介します。



全員完走しました！



フィニッシュ アーチ

上尾マラ



スタート前

上尾シティマラソン 完走記

JA 埼玉県厚生連 久喜総合病院 齋藤俊樹

このたび、上尾シティマラソン完走記を執筆させていただくことになりました、齋藤です。

私は今年、久喜総合病院・放射線科に入職し、1年目で放射線治療を担っています。この放射線治療に配属され、職場の先輩技師との出会いがきっかけで、今回上尾シティマラソンに参加しました。私は、正直ランニングが嫌いです。しかし、上司からの後押しを受け、半ば強制ながらも人生初のハーフマラソン完走を達成したいと思いました。ランニング用品を揃える所から始まり、仕事終わりに嫌々走る日々が続きました。練習では10kmを1時間20分ペースで走っていたので、先輩方からは足切りの重圧を掛けられていました。そして迎えた本番当日。早朝からお腹を壊すというアクシデントに見舞われながらも、メン



久喜総合病院の皆さん

バーが待つ中、上尾陸上競技場に到着し、先輩技師の方々とウォーミングアップを済ませ、9時に一齐スタート。周りはやる気と自信に満ち溢れたランナーばかりで、圧倒されながらも必死に追いかけ、先輩方を追い越し、中盤までは楽しく走りました。快調に走る中15km地点を超えた時、脚に鈍痛がはしり、だんだん脚が上がらなくなり、ついには歩くようになってしまうリタイヤも考えました。しかし、負けたら坊主というルールがあったため、自分に負けずゴールに向かい、ただひたすら走り続けました。すると

次第に脚も軽く感じ、気が付いたら競技場にいました。そしてようやくゴール。記録は2時間3分でしたが、完走できたことが何より嬉しかったです。その後は、技師会員の方々との交流会も含めた打ち上げへ。私の先輩技師である大槻技師は、時間オーバーで私たち全員を待たせたにも関わらず、まるで一位でゴールしたかのようなすがすがしいゴールシーンはとても印象的でしたが、その話はさておき、全員で完走できた後のお酒は最高でした。全員で一つの目標をやり遂げることで、達成感を共感でき、何より自分の自信につながりました。来年は記録に挑戦したいと思います。最後に、このような機会を与えてくださった技師会員の方々に大変感謝致します。ありがとうございました。



補給宴会！

ソーン出場

2013年 SART ランニングクラブ予定

次回、SART ランニングクラブの予定は、2013年7月上旬開催の8時間耐久レース@航空公園です。ただし、8時間の半分、4時間で切り上げて、補給宴会します！！

このレースはタイトル通り8時間走るレースなので、キツイと思われるかも知れませんが、実はそんなことはありません。個々のペースで適当に走れる大会です。コースは約3Kmの周回コースをグルグル回ります。

今回、予定の4時間でしっかり走るのもよし、10Kmや20Kmだけ走るのもよし。もちろんウォーキングに徹するのでもよし。個人個人のスタイルで出場しませんか。

またこの大会は、別名「グルメマラソン」といわれ、エイドが豊富です。飲み物はマイコップ持参で飲み放題。食べ物は梅干し、フルーツ、おにぎり、そうめん、冷やし中華、サンドイッチ、カキ氷などなど。周回でエイドステーションにたどり着くたび、何が出てくるか楽しみです。4時間も走れない方は、早めに切り上げてエイドステーションでグルメを楽しむのも一つかもしれませんね。

本大会は近年人気なので、早めに参加登録することをお勧めします！
申し込みは、スポーツエイドジャパン <http://sportsaid-japan.maxs.jp/>
もしくはランネット <http://runnet.jp/> からできます。
走り終わったら皆さんで補給宴会しましょう！ ご連絡お待ちしております！

「SART ランニングクラブ」

- 1：練習は各自自主活動 2：大会出場の際所属は「SART」と記載 3：出場後は走った分のカロリーをビールなどで補給宴会 4：連絡窓口（肥沼 t-koinuma @ sart.jp）



去年の8時間耐久レースの様子

平成24年度 第2回常務理事会議事録（抄）

日 時：平成24年9月4日（水）18：30～21：00
 場 所：公益社団法人 埼玉県診療放射線技師会事務所
 出席者：会長：小川 清
 副 会 長：堀江 好一、橋本 里見
 常 務 理 事：田中 宏、芦葉 弘志、結城 朋子、
 富田 博信、潮田 陽一
 委任状提出者：中村 正之

(a) 申込ページのURLを設定し会誌に掲載
 (b) HP上の掲載場所決定
 d. その他

(2) 埼玉放射線（会誌）について
 ア. 埼玉放射線第4号は平成24年9月10日発刊予定
 (3) Webサイト更新
 ア. 第4.7回 埼玉CT Technology Seminar 開催のご案内
 イ. 循環器画像技術研究会 第288回定例会

第1. 会長挨拶（要旨）

まだまだ暑い日が続きますが、9月から12月は、学術関係のイベントが目白押しですが、情報を共有しながらすすんでいきたい。また業務拡大に関する講習会も開催され、会員の期待にしっかり応えていきたい。

第2. 議事録作成人、議事録署名人の選出

議 長 小川 清
 議事録署名人 橋本 里見、堀江 好一
 議事録作成人 芦葉 弘志
 と定めた。

議事録作成人、議事録署名人の選出につき、小川会長を議長に選出し、平成24年度、第2回常務理事会を開催した。

第3. 報告および確認事項

1. 会長（小川）

- (1) 表彰関係について報告した。
- (2) 全国診療放射線技師総合学術大会（名古屋）の事前参加券および情報交換会券について報告した。
- (3) 健康長寿埼玉県民アンケート 堀江副会長に依頼した。
- (4) 埼玉理学療法士会創立40周年式典 9月15日（土）出席予定。
- (5) 平成24年度関東甲信越診療放射線技師学術大会 事前登録をお願いした。
- (6) 日本放射線技師会関係
 - ア. 都道府県放射線技師会未所属会員調査 堀江副会長へ依頼した。
 - イ. 災害対策委員会アンケート

2. 堀江副会長

- (1) フィルムリーディング企画会議を行った。

3. 総務（田中）

- (1) フレッシュアップセミナー入会状況について、受講者は42人受講であったが、未入会は36人で、そのうち平成24年度入会者は現在10人である。
- (2) 埼放技のみの会員で今年度、日放技に入会した会員は13名である。

4. 財務（結城）

- (1) 賛助会員規定について討議した。

5. 編集情報（潮田）

- (1) 編集情報委員会開催
 - ア. 第3回編集・情報委員会
 - (1) 日時：平成24年8月7日（火）18：30～20：30
 - (2) 場所：技師会センター
 - (3) 内容：
 - a. 埼玉放射線2012年第5号発刊について
 - b. 埼玉放射線2012年第5号表紙について
 - c. 認定講習・学術大会Web申込みについて

6. 学術（富田）

- (1) 第3回学術委員会を平成24年8月28日（火）に開催した。以下内容に関して示す。
 - ア. 平成24年度講習会、セミナー報告（各担当より進捗状況）
 - イ. 学術大会に関して
 - (ア) 学術大会テーマ
理事会承認を報告『業務拡大への期待と責務』
 - (イ) 学術大会名に関しての提案について
学術大会開催名に関して理事会の意見を踏まえて継続検討する
 - (ウ) 演題登録申し込みについて
演題登録申し込み窓口Webに設定
期間：9月17日（月）～11月30日（金）（70演題に達しない場合1週間延長）
 - (エ) 新企画
学術委員会企画 担当：佐々木理事
『臓器別に考える』各モダリティからのアプローチ
毎年1臓器ずつ、シリーズ化していく。
 - (オ) 平成25年度学術大会日程
日程：2014年3月2日（日）（理事会承認済み）
場所：大宮ソニックシティ

7. 公益（中村）

- (1) リレー・フォー・ライフ川越 会議の参加をした。
 - ア. 日時：平成24年8月18日（土）
 - イ. 場所：川越市民会館 第一会議室
 - ウ. 参加者：星野理事
- (2) 第3回公益委員会の開催9月上旬を予定
- (3) 9月15日（土）～16日（日）リレー・フォー・ライフ川越に参加する。
- (4) 9月30日彩の国いきいきフェスティバル事前説明会に参加する。

その他

1. 「チーム医療推進のための看護業務検討ワーキンググループによる医行為分類案について」日本診療放射線技師会に出されたアンケートについて討議し回答した。

次回、平成24年度 第3回常務理事会予定 平成24年11月7日（水）

配布資料（メール配信を含む）

- (1) 会長資料
- (2) 副会長資料
- (3) 総務、財務資料
- (4) 編集情報資料
- (5) 公益資料
- (6) 学術資料
- (7) 議事録

平成24年度 第5回理事会議事録（抄）

日 時：平成24年10月3日（水）
午後6時30分～午後9時30分
場 所：公益社団法人 埼玉県診療放射線技師会事務所
出席者：会長：小川 清
副会長：堀江 好一、橋本 里見
常務理事：田中 宏、芦葉 弘志、結城 朋子、
中村 正之、富田 博信、潮田 陽一
理事：星野 弘、八木沢 英樹、栗田 幸喜、
佐々木 健、今出 克利、双木 邦博、
大西 圭一、庭田 清隆、山田 伸司、
矢崎 一郎、石川 直哉
監事：山本 英明
顧問：
委任状提出者：和田 幸人
欠席：鈴木 正人

第1. 会長挨拶（要旨）

名古屋国際会議場で行われた日本診療放射線技師会学術大会は、3000人をこえる来場者で、主催者側も大変喜んでいました。来年は鳥根県になりますが、ご協力のほどよろしくお願い致します。

メールでも連絡しましたが特定看護師の行為の分類ですが、絶対的医行為に変えてほしい意見をだしましたが、昭和の医療が変革の時にきた実感があります。医師が少ないという事と仕事量緩和について特定看護師制度をきっかけにして、我々も上がっていくスタンスをとっていきたいと思います。

10月ですので、行事等の進捗状況も踏まえて皆さんで議論していきたいと思ひます。

第2. 議事録作成人、議事録署名人の選出

議長：堀江 好一
議事録署名人：小川 清、山本 英明
議事録作成人：芦葉 弘志
と定めた。

第3. 報告および確認事項

1. 会長（小川）挨拶

- (1) 公衆衛生事業功労埼玉県知事表彰及び公衆衛生事業功労協会、知事表彰について報告した。
- (2) 全国診療放射線技師総合学術大会（名古屋）参加者について報告があった。
- (3) 業務拡大講習会（下部消化管）について報告があった。
- (4) 業務拡大講習会（抜針）について報告があった。
- (5) 生涯学習カウントについての報告があった。
- (6) 埼玉県理学療法士会創立40周年記念式典（9月15日）に参加した。
- (7) 渡辺氏叙勲受賞祝賀会（9月17日）に参加した。
- (8) 特定看護師アンケートについて回答した。
- (9) 会長会議報告について説明した。

2. 副会長（堀江）

- (1) 9月3日（月）19:00～20:00、本会事務所において第3回学術大会における読影コーナー準備委員会を開催し

た。

本会出席者：小川 清・橋本里見・堀江好一・田中 宏・富田博信・城處洋輔

- (2) 条例で定める医療施設の人員、施設等の基準への意見として、本会からも意見を提出したが、9月19日、医療整備課より、条例では省令のとおり基準を規定するが、意見の趣旨を踏まえ、医療機関の実態に即した指導を行っていく旨の通知が届いた。
- (3) 渡辺氏叙勲受賞祝賀会（9月17日）に参加した。

3. 総務（田中）

- (1) フレッシュアップセミナー入会状況について、受講者は42人受講であったが、未入会は36人で、そのうち平成24年度入会者は現在10人である。9月中旬に入会案内を送った。
- (2) 埼玉放技のみの会員で今年度、日放技に入会した会員は13名である。
9月中旬に入会案内を送った。
- (3) 埼玉放技会員が2人日放技へ入会した。
- (4) 50.30年永年勤続表彰（日放技）抽出依頼あり。提出期限は11月30日（金）。

4. 総務（芦葉）

- (1) 役員研修会について
日時 平成24年11月22日（木）19:00から20:30
場所 大宮ソニックシティ 905号室
- (2) 日本診療放射線技師会 表彰者
日本診療放射線技師会表彰対象者へ、関係書類を今月中に送付する。
- (3) 新年会実行委員会を11月に開催する。

5. 編集・情報（潮田）

- (1) 埼玉放射線2012年第5号の発行
ア. 埼玉放射線2012年第5号を9月11日（金）に発行した。
- (2) Webサイトの運営
ア. 各勉強会案内の更新を行った。
イ. 学術大会演題登録を開始した（9月17日～11月30日）。
- (3) 今後の予定
ア. 第4回編集・情報委員会
(ア) 日時：平成24年10月9日（火）18:30～
(イ) 場所：技師会センター
(ウ) 内容：埼玉放射線2012年第6号発行について
イ. 埼玉放射線2012年第6号発行
(ア) 日程：平成24年11月15日（木）予定
- (4) 埼玉放射線2012年第6号掲載予定内容の確認をした。

6. 編集・情報（八木沢）

- (1) Webサイト 掲載および更新（会員用）を確認した。
- (2) Webサイト 掲載および更新（一般用）を確認した。
- (3) メールマガジン No51.52の配信をした。

7. 学術（富田）

- (1) 第3回学術委員会を平成24年8月28日（火）に技師会事務所にて行った。

- ア. 平成24年度各認定講習会セミナー報告（各担当より進捗状況）。
- イ. 学術大会テーマ 理事会承認を報告『業務拡大への期待と責務』
- ウ. 学術大会開催名に関して理事会の意見を踏まえて継続検討する。
- エ. 演題登録申し込み窓口 Web に設定
期間：9月17日（月）～11月30日（金）（60演題に達しない場合1週間延長）
- オ. 学術委員会企画『臓器別に考える』各モダリティからのアプローチ。
- (2) 平成25年度学術大会日程：2014年3月2日（日）（理事会承認済み）
8. 公益（中村）
- (1) 第3回公益委員会を開催した。
- ア. 日時：平成24年9月6日（木）18：30～21：30
- イ. 場所：技師会事務所
- ウ. 参加者：5名
- (2) 平成24年8月18日（土）リレー・フォー・ライフ川越の会議に参加した。
- (3) 平成24年9月15日（土）16日（日）リレー・フォー・ライフ川越2012に参加した。
- ア. 場所：川越水上公園 芝生広場
- イ. 参加者：第3地区合同 51名
- (4) 平成24年9月30日（日）彩の国いきいきフェスティバル説明会に参加した。
- (5) パネルについて
9. 公益（星野）
- (1) 平成24年9月15日（土）16日（日）リレー・フォー・ライフ川越2012に参加した。
- ア. 場所：川越水上公園 芝生広場
- イ. 参加者：第3地区合同 51名
10. 第一支部（双木）
- (1) 第2回支部勉強会を開催した。
- 日時：平成24年8月29日（水）19：00～21：00
- 場所：済生会川口総合病院 3階 第1会議室
- 参加者：49人
- (2) 第一回 地区合同勉強会 ～ Collaboration Summit 2012 ～を開催した。
- 日時：平成24年9月9日（日）13：30～17：00
- 場所：大宮法科大学院大学 2階講堂
- 参加者：123人
- (3) 第二回 地区役員会を開催した。
- 日時：平成24年9月14日（金）19：00～
- 場所：埼玉社会保険病院
- 出席：10人
11. 第二支部（大西）
- (1) 第4回勉強会を開催した。
- 日時：平成24年9月20日（木）18：30～
- 場所：所沢市保健センター
- 参加者：80名
- (2) 第一回 地区合同勉強会 ～ Collaboration Summit 2012 ～を開催した。
- 日時：平成24年9月9日（日）13：30～17：00
- 場所：大宮法科大学院大学 2階講堂
- 参加者：123人
12. 第三支部（庭田）
- (1) 平成24年8月18日（土）リレー・フォー・ライフ川越の会議に参加した。
- (2) 平成24年9月15日（土）16日（日）リレー・フォー・ライフ川越2012に参加した。
- ア. 場所：川越水上公園 芝生広場
- イ. 参加者：51名
- (3) 第26回 川越市健康まつり 第2回実行委員会に出席した。
- 日時：平成24年9月20日（木）13：30～15：00
- 場所：川越市総合保健センター 1階 研修室
13. 第四支部（山田）
- (1) 支部勉強会を開催した。
- 日時：平成24年9月27日（木）19：00～
- 場所：熊谷文化創造館 さくらめいと
- 人数：44名
- (2) 地区役員会を開催した。
- 日時：平成24年9月27日（金）20：30～
- 場所：熊谷文化創造館 さくらめいと
- 人数：7名
14. 第五支部（矢崎）
- (1) 支部情報交換会を開催した。
- 日時：平成24年8月23日（木）
- 場所：春日部市市民活動センター
- 参加者：25名
- (2) 支部情報交換会を開催した。
- 日時：平成24年9月20日（木）
- 場所：春日部市市民活動センター
- 参加者：20名
- (3) 越谷市市民祭り事業室会議に参加した。
- 日時：平成24年9月11日（火）
15. 第六支部（石川）
- (1) 支部役員会を開催した。
- 日時：平成24年8月20日（木）19：00～
- 場所：さいたま赤十字病院
- 参加者：9名
- (2) 第一回 地区合同勉強会 ～ Collaboration Summit 2012 ～を開催した。
- 日時：平成24年9月9日（日）13：30～17：00
- 場所：大宮法科大学院大学 2階講堂
- 参加者：123人
- 第4. 審議・承認事項
1. 「新入会の承認」について審議し承認した。（議案書番号：理-48）（承認）
2. 支部学術委員制度の提案（案）に関して審議した。活動内容は、
- ・本会学術と支部との連絡調整役となり本会の学術及び支部勉強会の活性化。
 - ・若手の技師会会員を増やし、将来の技師会の人材を育成する。
 - ・本会学術大会の活性化。

- ・本会学術主催セミナーの活性化。
- ・本会学術との連携による地区勉強会の活性化および人材発掘。との説明が担当理事よりあった。その後、支部理事から様々な意見が出され、継続審議となった。(議案書番号:理-49)(継続審議)
- 3. 所沢市健康まつりに「あなたのための放射線展」を開催することについて審議し承認となった。(議案書番号:理-50)(承認)
- 4. 会員証を新入会員への新規発行について審議した。公益法人取得に伴い、本会名称変更後、新入会員への会員証新規発行は見送っている。選択肢として、1. 平成24年度新入会員に対し、旧法人名で会員証を発行する。2. 新入会員のみ新法人名で会員証を発行する。3. 新法人名の会員証を全会員に来年度発行する。この場合、平成24年度新入会員の会員証もこの時同時に発行する。
審議の結果、3が承認された。ただし、平成24年度入会者には、カード発行が来年度になる旨のお知らせをすることにした。(議案書番号:理-51)(一部修正後承認)
- 5. 埼玉乳がん臨床研究グループ主催「第12回乳がん市民フォーラム in さいたま」の後援依頼があった。審議し承認となった。(議案書番号:理-52)(承認)
- 6. 平成24年度マネジメントセミナー Freedセミナー(ミドルクラスマネジメントセミナー)の開催について審議した。担当理事より以下の説明があった。20代後半~30代前半の世代は、10年先を担う極めて重要な世代である。しかし、環境によっては意識が低下していく時期でもある。そして、他施設の同世代の技師同士で意見交換する事で、自分自身を見直し、技術だけではなく、人間性の育成を目的としたセミナーにしたい。このような形式のセミナーは他の地域でも同様の試みがされていて、参加型のマネジメントセミナーとして効果が期待できるという意見もあり、承認となった。(議案書番号:理-53)(承認)
- 7. 日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会からの後援依頼について審議し、承認となった。(議案書番号:理-54)(承認)

配布資料(メール配信を含む)

- (1) 会長資料
- (2) 副会長資料
- (3) 総務・財務資料
- (4) 編集・情報資料
- (5) 学術資料
- (6) 公益資料
- (7) ホームページ資料
- (8) 各支部資料(第一支部、第二支部、第三支部、第四支部、第五支部、第六支部)
- (9) 議案書

公益社団法人 埼玉県診療放射線技師会

平成 24・25 年度役員名簿

役 職 名	氏 名	勤 務 先	勤務先電話	技師会メール
会 長	小川 清	小川赤十字病院	0493-72-2333	k-ogawa@sart.jp
副 会 長	堀江 好一	社会保険大宮総合病院	048-663-1671	k-horie@sart.jp
副 会 長	橋本 里見	埼玉社会保険病院	048-832-4951	s-hashimoto@sart.jp
常務理事(総務)	田中 宏	埼玉県立小児医療センター	048-758-1811	h-tanaka@sart.jp
常務理事(総務)	芦葉 弘志	丸山記念総合病院	048-757-3511	h-ashiba@sart.jp
常務理事(財務)	結城 朋子	済生会川口総合病院	048-253-1551	t-yuuki@sart.jp
常務理事(編集・情報)	潮田 陽一	埼玉医科大学総合医療センター	049-228-3593	y-ushioda@sart.jp
常務理事(学術)	富田 博信	済生会川口総合病院	048-253-1551	h-tomita@sart.jp
常務理事(公益)	中村 正之	獨協医科大学越谷病院	048-965-1111	m-nakamura@sart.jp
理 事(学術)	栗田 幸喜	済生会栗橋病院	0480-52-3611	k-kurita@sart.jp
理 事(学術)	今出 克利	さいたま市民医療センター	048-626-0011	k-imade@sart.jp
理 事(学術)	佐々木 健	上尾中央総合病院	048-773-1111	t-sasaki@sart.jp
理 事(編集・情報)	八木沢英樹	埼玉社会保険病院	048-832-4951	h-yagisawa@sart.jp
理 事(公益)	星野 弘	埼玉社会保険病院	048-832-4951	h-hoshino@sart.jp
理事(総務)第一支部	双木 邦博	さいたま市立病院	048-873-4111	k-namiki@sart.jp
理事(総務)第二支部	大西 圭一	所沢ハートセンター	042-940-8611	k-onishi@sart.jp
理事(総務)第三支部	庭田 清隆	埼玉医科大学総合医療センター	049-228-3400	k-niwata@sart.jp
理事(総務)第四支部	山田 伸司	小川赤十字病院	0493-72-2333	s-yamada@sart.jp
理事(総務)第五支部	矢崎 一郎	春日部市立病院	048-735-1261	i-yazaki@sart.jp
理事(総務)第六支部	石川 直哉	指扇病院	048-623-1101	n-ishikawa@sart.jp

監事・顧問

役 職 名	氏 名	勤 務 先	勤務先電話	技師会メール
監 事	山本 英明	埼玉県立小児医療センター	048-758-1811	h-yamamoto@sart.jp
監 事	鈴木 正人	埼玉県県会議員		m-suzuki@sart.jp
顧 問	和田 幸人	埼玉医科大学病院	0492-76-1264	y-wada@sart.jp

役 職 名	氏 名	勤 務 先	勤務先電話	技師会メール
顧問税理士	増田 利治	増田利治税理士事務所	048-649-1386	

総務・財務委員会

役職名	氏 名	勤 務 先	勤務先電話	技師会メール
委 員 長	田中 宏	埼玉県立小児医療センター	048-758-1811	h-tanaka@sart.jp
副 委 員 長	結城 朋子	済生会川口総合病院	048-253-1551	t-yuuki@sart.jp
副 委 員 長	芦葉 弘志	丸山記念総合病院	048-757-3511	h-ashiba@sart.jp
委 員	堀江 好一	社会保険大宮総合病院	048-663-1671	k-horie@sart.jp
委 員	橋本 里見	埼玉社会保険病院	048-832-4951	s-hashimoto@sart.jp
委 員	双木 邦博	さいたま市立病院	048-873-4111	k-namiki@sart.jp
委 員	大西 圭一	所沢ハートセンター	042-940-8611	k-onishi@sart.jp
委 員	庭田 清隆	埼玉医科大学総合医療センター	049-228-3400	k-niwata@sart.jp
委 員	山田 伸司	小川赤十字病院	0493-72-2333	s-yamada@sart.jp
委 員	矢崎 一郎	春日部市立病院	048-735-1261	i-yazaki@sart.jp
委 員	石川 直哉	指扇病院	048-623-1101	n-ishikawa@sart.jp
委 員	田中 達也	小川赤十字病院	0493-72-2333	t-tanaka@sart.jp
委 員	岡田 義和	埼玉県健康づくり事業団	048-859-5173	y-okada@sart.jp
委 員	千田 俊秀	所沢市市民医療センター	04-2992-1170	t-chida@sart.jp
委 員	矢部 智	越谷市立病院	048-965-2221	s-yabe@sart.jp

学術委員会

役職名	氏名	勤務先	勤務先電話	技師会メール
委員長	富田 博信	済生会川口総合病院	048-253-1551	h-tomita@sart.jp
副委員長	栗田 幸喜	済生会栗橋病院	0480-52-3611	k-kurita@sart.jp
副委員長	今出 克利	さいたま市民医療センター	048-626-0011	k-imade@sart.jp
副委員長	佐々木 健	上尾中央総合病院	048-773-1111	t-sasaki@sart.jp
委員	尾形 智幸	さいたま赤十字病院	048-852-1111	t-ogata@sart.jp
委員	大森 正司	さいたま赤十字病院	048-852-1111	s-omori@sart.jp
委員	横山 寛	埼玉県立小児医療センター	048-758-1812	h-yokoyama@sart.jp
委員	越沼 沙織	済生会習志野病院	047-473-1281	s-koshinuma@sart.jp
委員	平野 雅弥	埼玉医科大学病院	0492-76-1264	m-hirano@sart.jp
委員	岡田 智子	さいたま赤十字病院	048-852-1111	s-okada@sart.jp
委員	中根 淳	埼玉医科大学総合医療センター	049-228-3400	j-nakane@sart.jp
委員	城處 洋輔	済生会川口総合病院	048-253-1551	y-kidokoro@sart.jp

編集・情報委員会

役職名	氏名	勤務先	勤務先電話	技師会メール
委員長	潮田 陽一	埼玉医科大学総合医療センター	049-228-3593	y-ushioda@sart.jp
副委員長	八木沢英樹	埼玉社会保険病院	048-832-4951	h-yagisawa@sart.jp
委員	肥沼 武司	国立障害者リハビリテーションセンター	04-2995-3100	t-koinuma@sart.jp
委員	栗田 幸喜	済生会栗橋病院	0480-52-3611	k-kurita@sart.jp
委員	白石 圭	伊奈病院	048-721-3692	k-shiraishi@sart.jp
委員	栗田 裕樹	佐々木病院	048-571-0242	y-kurita@sart.jp
委員	川田 俊彦	埼玉社会保険病院	048-832-4951	t-kawata@sart.jp
委員	坂田裕実子	埼玉社会保険病院	048-832-4951	y-sakata@sart.jp
委員	清水 邦昭	深谷赤十字病院	048-571-1511	k-shimizu@sart.jp
委員	菅野 方仁	大宮中央総合病院	048-663-2501	m-sugano@sart.jp
委員	宮崎 雄二	北里大学メディカルセンター	048-593-1212	y-miyazaki@sart.jp
委員	荻野 孝	埼玉医科大学病院	049-276-1264	t-ogino@sart.jp

公益委員会

役職名	氏名	勤務先	勤務先電話	技師会メール
委員長	中村 正之	獨協医科大学越谷病院	048-965-1111	m-nakamura@sart.jp
副委員長	星野 弘	埼玉社会保険病院	048-832-4951	h-hoshino@sart.jp
委員	芦葉 弘志	丸山記念総合病院	048-757-3511	h-ashiba@sart.jp
委員	工藤 安幸	東松山市立市民病院	0493-24-6111	y-kudoh@sart.jp
委員	志田 智樹	レインボークリニック	048-758-3891	t-sida@sart.jp
委員	志藤 正和	済生会川口総合病院	048-253-1551	m-shito@sart.jp
委員	澁市 直紀	埼玉医科大学国際医療センター	042-984-4192	n-shibuichi@sart.jp
委員	長谷部和仁	豊岡第一病院	04-2964-6311	k-hasebe@sart.jp

正 会 員 入 会 申 込 書

年 月 日

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会 会長殿

私は貴会の目的に賛同し、下記により入会したく会費を添えて申し込めます。

フリガナ		性 別	生 年 月 日	
氏 名		男・女	西 暦 年 月 日	

<p style="text-align: center;">1. 2. それぞれに○をつけご回答ください</p> <p>1. 今回の入会は [<input type="checkbox"/>新入会 <input type="checkbox"/>再入会 <input type="checkbox"/>転入]</p> <p>2. <input type="checkbox"/>日本診療放射線技師会&埼玉県診療放射線技師会へ入会 <input type="checkbox"/>埼玉県診療放射線技師会のみ入会</p>	転入前の 所属技師会	
--	---------------	--

フリガナ	TEL ー ー
勤務先名	
フリガナ	〒
勤務先住所	
フリガナ	TEL ー ー
自宅住所	

会誌送付先	① 勤務先	所属支部（地区）
	② 自宅	

診療放射線 技師免許	国家試験	第	回	合格
	登録	第	号	年 月 日 登録

免許取得の 学歴	入学年月日	西暦	年	月
	卒業年月日	西暦	年	月
	学校			

関連分野の 最終学歴	学位	ある	なし
	学位記番号		
	授与年月		
	授与機関		

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会
〒331-0812
さいたま市北区宮原町2-51-39
TEL048-664-2728
FAX048-664-2733

退 会 届

年 月 日

会員番号	
会員名	印
退会理由	
退会希望日	年 月 日
退会技師会名 どちらかに ○をつけてください	①日本診療放射線技師会と埼玉県診療放射線技師会を 退会 ②埼玉県診療放射線技師会会員のみとなる
会費納入状況	年度分まで納入済み

決済処理

埼玉放技	
日放技	

会員異動届

ファックス送信票

下記の通り送信いたしますので、よろしくお願い致します。

受信者	FAX番号：048-664-2733 公益社団法人埼玉県診療放射線技師会
送信者	氏名
	施設名
	〒 施設住所

*郵送の場合
〒331-0812 さいたま市北区宮原町2丁目51番地39
公益社団法人埼玉県診療放射線技師会
電話：048-664-2728

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会
会員登録変更届

平成 年 月 日

ふりがな 届出会員名		支部名	支部
技師会番号			

①転出者は正確にご記入下さい			
転出先	() 県へ転出	技師会費を () 年度まで納入	
変更項目	<input type="checkbox"/> 印	②変更した項目をご記入下さい	
	ふりがな 自宅住所	〒 - TEL - -	
	ふりがな 勤務先名		
	ふりがな 勤務先住所	〒 - TEL - -	
	ふりがな 改 姓		
	支部変更	第 () 支部を第 () 支部に	
連絡先変更			

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会発行の会誌「埼玉放射線」で、診療放射線技師の求人コーナーを掲載しております。次の掲載要項をご理解の上、申し込みくださるようお願い申し上げます。

発行部数：約 1250 部

発行エリア：埼玉県内

発行月：1・3・5・7・9・11 月中旬

原稿締切日：発行月の 1 カ月前の 1 日

申込方法：2012 年第 5 号別冊巻末用紙を用い FAX 送信、または同項目を記載し電子メールにて申し込み。法令により年齢や性別に関する記述はできません。

掲載可否：後日担当者より連絡

掲載料：1 回 1 万円

振込先：掲載決定後にご連絡

本会は、求人情報の掲載のみで、雇用内容に関するお問い合わせは受けておりません。また雇用契約に一切関わっておりません。

求人コーナー

募集対象者

雇用形態

業務内容

待遇

勤務時間

休日

募集人員

宿舍の有無

社会保険など

応募方法

その他

求人広告掲載申し込みFAX用紙

施設名	
住所	
担当者氏名	
TEL	
FAX	
E-mail アドレス	
担当者	
募集対象者	
雇用形態	
業務内容	
待遇	
勤務時間	
休日	
募集人員	
宿舍の有無	
社会保険など	
応募方法	
その他	

FAX 送信先 公益社団法人埼玉県診療放射線技師会
 FAX 番号 048-664-2733
 電子メールアドレス sart@beige.ocn.ne.jp

1. 投稿の資格

- 1) 診療放射線技師の原則として、公益社団法人埼玉県診療放射線技師会会員に限る。
- 2) 診療放射線技師でない執筆者は、その限りでない。

2. 投稿の種類

原著論文、総説、誌上講座、資料、学会特集、学術特集、学術寄稿、その他とする。
但し、原著論文については未発表のものに限る。

3. 投稿論文の採否

投稿論文の採否は、編集・情報委員会で決定する。原著論文、総説、誌上講座、資料の審査には査読制を採用する。掲載は、原則として採用順とする。

4. 投稿の方法

原則的には MS Word を使用し電子メールにて投稿する。

5. 原稿の記載方法

- 1) 表紙：①論文表題 ②全著者名 ③施設名・所属

- 2) 本文：①和文要旨(400字以内、キーワード5個以内)

②緒言、使用機種、対象・方法、結果、考察、結語の順に記載する。

③原稿は、和文または英文とする。英文の場合は、英文要旨も添付する。

原則的には MS Word を使用し、A4 横書き

初頁：22 字×35 行×2 段(1540 字)

2 頁以降：22 字×40 行×2 段(1 頁 1760 字)

とする。

なお本書式は本会ウェブサイトよりダウンロード可能。

- 3) 図・表：①本文中に挿入する。

②図・表の題名を「図 1：○○」のように表記する。

③図・表の挿入位置を本文内に記す。

- 4) 文献：引用文献は、本文の終わりに引用順に記す。表記形式は、下記のとおりとする。なお、著者名は筆頭者から 3 名までとし、それ以上は、和文文献の場合「他」、英文文献の場合は「et al」とする。

①雑誌の記載法

著者名：表題、雑誌名(省略形)、巻、初項～終項、発行年(西暦)

②単行本の記載法

著者名：表題、書名(版)、発行所、発行地、発行年(西暦)、初項～終項

- 5) 学会特集については、専用の用紙を用い、その他については可能な限り、上記の手順に基づくものとする。

6. 校正

原著論文、総説、誌上講座、資料、学術特集、学術寄稿の執筆校正は初稿のみとし、直接筆頭者に送付する。5 日以内に校正の上返送すること。

7. 別冊

原著論文、総説、誌上講座、資料、学術特集、学術寄稿に限り 20 部まで本会負担とする。追加分の別冊は有償とし 10 部単位で著者負担する。その際に別紙に表題と希望部数、別刷送付先を明記すること。

8. その他

投稿規程は理事会の議を経て改変することがある。

9. 原稿送信先

電子メールにて、編集情報委員会委員長あてに送信する。

電子メールの使用が困難な場合は、電話にて編集情報委員会委員長に連絡する。その後は委員長が状況に応じ対処する。

10. 問い合わせ

〒350 - 8550 埼玉県川越市鴨田 1981

埼玉医科大学総合医療センター 研究部 潮田陽一

電話 049 - 228 - 3593

E-mail : y-ushioda@sart.jp

平成 24 年度

埼玉県診療放射線技師会 年間スケジュール表
日本診療放射線技師会等

平成 24 年度 (10-12) 予定											
10 月		埼玉放技 (含共催)	日放技等	11 月		埼玉放技 (含共催)	日放技等	12 月		埼玉放技 (含共催)	日放技等
月	1			木	1			土	1		
火	2			金	2			日	2	胸部認定講習会	
水	3	理事会 5		土	3			月	3		
木	4			日	4			火	4		
金	5			月	5			水	5	理事会 6	
土	6		関東甲信越 学術大会	火	6			木	6		
日	7			水	7	常務理事会 3		金	7		
月	8			木	8			土	8		
火	9			金	9			日	9	上部消化管検査認定講習会	
水	10			土	10			月	10		
木	11			日	11			火	11		
金	12	読影実践トレーニング (胸部編)		月	12			水	12		
土	13			火	13			木	13		
日	14			水	14			金	14		
月	15			木	15			土	15	関東支部会学術講演会 & SART 読影セミナー	
火	16			金	16	読影実践トレーニング (胸部編)		日	16		
水	17			土	17			月	17		
木	18			日	18	MRI 基礎講習会		火	18		
金	19			月	19			水	19		
土	20			火	20			木	20		
日	21			水	21			金	21		
月	22			木	22			土	22		
火	23			金	23			日	23		
水	24			土	24			月	24		
木	25			日	25			火	25		
金	26			月	26			水	26		
土	27	CT 認定講習会 MRI 合同学術講演会		火	27			木	27		
日	28	CT 認定講習会 SART-SCTT 合同勉強会		水	28	常務連絡会 5		金	28		
月	29			木	29			土	29		
火	30			金	30			日	30		
水	31							月	31		

平成 24 年度 (1-3) 予定											
1 月		埼玉放技	日放技等	2 月		埼玉放技	日放技等	3 月		埼玉放技	日放技等
火	1			金	1			金	1		
水	2			土	2			土	2		
木	3			日	3	乳腺勉強会		日	3	第 28 回学術大会	
金	4			月	4			月	4		
土	5			火	5			火	5		
日	6			水	6	理事会 7		水	6	常務理事会 5	
月	7			木	7			木	7		
火	8			金	8			金	8		
水	9	常務理事会 4		土	9			土	9		
木	10			日	10			日	10		
金	11	新春の集い		月	11			月	11		
土	12			火	12			火	12		
日	13			水	13			水	13		
月	14			木	14			木	14		
火	15			金	15			金	15		
水	16			土	16			土	16	第 4 回救急セミナー	
木	17			日	17			日	17		
金	18			月	18			月	18		
土	19			火	19			火	19		
日	20	上部消化管検査認定講習会		水	20			水	20		
月	21			木	21			木	21		
火	22			金	22			金	22		
水	23			土	23			土	23	第 1 回 Freed セミナー	
木	24			日	24	認定試験 (CT・胸部・上部消化管)		日	24		
金	25			月	25			月	25		
土	26			火	26			火	26		
日	27			水	27			水	27	常務連絡会 7	
月	28			木	28			木	28		
火	29							金	29		
水	30	常務連絡会 6						土	30		
木	31							日	31		

—編集後記—

本誌の裏表紙には、毎号会員の皆様からお寄せ頂いた写真を掲載しております（今年から不定期）が、そのどれもがとても美しく素晴らしいもので、思わず見とれてしまう物もあります。

このような渾身の一枚を撮るには、レンズやカメラの知識がベースにあって、さらに構図やタイミングなどのセンスも必要な事が多いと思います。そう考えると、何だか難しそうなイメージですが、しかし「写真」自体は、決して特別なものではなく、むしろ携帯やスマホが普及した今日では、誰もがいつでもどこでも、気軽に撮影できる身近なものになってきたと感じます。そして今は、それらの写真を SNS（ソーシャルネットワーキングサービス・mixi や Facebook など）を利用し、公開することもできます。以前であれば、写真は旅行や記念事の時に十数枚撮る程度でした。しかし、今では日常のちょっとしたことをコメント付きでみんなと共有できるのですから、全くスゴイ時代になったものです。実際、私も SNS を通じて周りの人たちとのコミュニケーションを楽しんでいます、そこにアップされる写真はまさにその人の「目」であり、普段何に興味を持ち、どんな視点でどういった所を見ているのかを知ることができます。同じ所へ訪れても、人によって全く違う点に感動し、シャッターを切っているのですから、まさに写真はその人の心の中を写し出すものだと思います。とはいえ、毎度そんな小難しい事を意識して写真を見ていてもつまらないので、まあのほほんと楽しんでいきたいと思います。

(天カエル)

埼玉放射線 第 229 号

印刷	平成 25 年 1 月 11 日
発行日	平成 25 年 1 月 18 日
発行所	〒331-0812 さいたま市北区宮原町 2-51-39 公益社団法人埼玉県診療放射線技師会 E メールアドレス sart@beige.ocn.ne.jp
発行人	公益社団法人埼玉県診療放射線技師会 会 長 小 川 清 編集代表 潮 田 陽 一
印刷	〒338-0007 さいたま市中央区円阿弥 5-8-36 望 月 印 刷 株 式 会 社 電話 048-840-2111

事 務 所

〒331-0812
さいたま市北区宮原町 2 丁目 51 番 39
公益社団法人埼玉県診療放射線技師会
電 話 048-664-2728 FAX 048-664-2733
E メールアドレス sart@beige.ocn.ne.jp

事務局長 渡 辺 弘
事務員 植 松 敏 江
勤務時間 9:00~12:00
13:00~15:00



表紙の解説

新春を迎え



〒331-0812 埼玉県さいたま市北区宮原町2丁目51番39

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会

TEL 048-664-2728

FAX 048-664-2733

www.sart.jp

sart@beige.ocn.ne.jp

領布価格 1,000円(会誌購読料は会費に含まれる)